

329  
251



始



329-251



朕が竹殿

正  
4. 12. 7  
購求

佛の國の其の月は大いんは三劫  
人とあるまや 戦はるる一は暗黒の色  
とつふ帯あめの大心をもあふ  
結果はありとつふは物のされを  
しをものつふとつふは物されを  
さるひ下、新の道ははらて  
る井 陽 光



### 緒言

フランスの一軍事探偵が、カイゼル陛下出陣の御不在に乗じ苦心  
惨憺ボツダム宮殿の奥深く忍び込み、嚴重なる警戒を冒して、其の秘  
密室より窃み出したるカイゼル陛下の秘密書、其れをクリュール氏  
が佛譯して私費を投じ、出版公願したのが即ち本書である。

本書を寄贈して呉れた巴里の一友は、其の手紙に、フランスの全國  
民をして、最後の一人となるまで戦はんとの舉國的大決心を爲さし  
めた原因が、主として、本書の公刊された結果であると云ふことは本  
書を一讀した者の等しく首肯する所であると裏書してゐる、これを  
以て本書の内容と價值とを知ることが出来やう。

吾輩固より淺學にして不文、カイゼル陛下の大文章の翻譯者とし

て適者でないおとは勿論で、陛下に對し讀者に對し、只々恐縮の外はないが、然し、讀者が此の拙譯によりて、其輪廓だけでもカイゼル陛下の人物、大野心、大計畫について知るおとを得れば、吾輩の大いに満足とし、且つ光榮とするおとあるである。

大正三年十一月

日本皇帝陛下の一臣民  
樋口麗陽識

カイゼル陛下の  
大野心、大計畫  
について知るおとを得れば、吾輩の大いに満足とし、且つ光榮とするおとあるである。

目次

朕が作戦	
一	恐憂すべき日本人……………一
二	免れ難き日獨開戦……………四
三	日本恐るゝに足らず……………七
四	日露戦争に徴せよ……………一〇
五	日本の真相……………一二
六	日本何をか爲し得んや……………一六
七	眼の上の瘤は日本……………一九
八	朕は黃禍論者なり……………二二
九	臺灣島を奪はん……………二五
一〇	あゝ歐洲の民よ……………二六
一一	汝の敵は黄色の惡魔……………二八
一二	戦慄すべき黃禍……………三〇
一三	全歐に盟主たらん……………三二
一四	大英雄の資質は祖父の遺傳……………三四
一五	全歐統一の順序……………三六
一六	佛蘭西國民の真相……………四〇
一七	佛蘭西兵の戦闘力……………四二
一八	ドンキホーテ式にあらず……………四四
一九	親愛なる獨逸國民よ……………四六
二〇	最後は只鐵拳あるのみ……………四八
二一	恐るべき露西亞帝國……………五〇
二二	英國海軍の實力……………五二
二三	朕とナポレオン一世……………五四
二四	決して躊躇するの要なし……………五六
二五	獨米攻守同盟……………五八
二六	第二計畫は日本分割……………六〇
二七	日獨米三角同盟を作らん……………六二
二八	世界を三分割せん……………六四
二九	日本は黃禍の原菌……………六六
三〇	斷じて存在を許さず……………六八

カイゼル陛下の  
大野心、大計畫  
について知るおとを得れば、吾輩の大いに満足とし、且つ光榮とするおとあるである。

三二	また手段を擇ばず……………	一〇三
三二	愚なるナポレオン三世……………	一〇三
三三	朕は現實の超人なり……………	一〇八
三四	朕は小なる全知全能なり……………	一〇九
三五	朕が軍事上の興味……………	一一三
三六	英國の態度を見よ……………	一一六
三七	佛蘭西の態度を見よ……………	一一九
三八	露國の態度を見よ……………	一二四
三九	戰勝は絶對權威……………	一二九
四〇	日本に利用せらるゝ英國……………	一三三
四一	英國眞に自覺せよ……………	一三七
四二	朕を誤解せしむる新聞記者……………	一四〇
四三	新聞記者を撲滅せん……………	一四四
四四	責任は神に對してのみ……………	一四七
四五	武力は國家防護の最上手段……………	一四九
四六	餘儀なく血を好み戰を好む……………	一五〇
四七	之れ列國の罪なり……………	一五一
四八	地中海上の日章旗……………	一五五
四九	醒めよ！醒めよ！……………	一五九
五〇	基督教は墮落宗教……………	一六〇
五一	國民を骨拔となす宗教……………	一六二
五二	獨逸固有の福音……………	一六四
五三	人造帝王と神造帝王……………	一六六
五四	酷刑中の極刑に處せん……………	一六九
五五	社會黨は寧ろ小敵……………	一七〇
五六	新聞政略……………	一七六
五七	新聞の皇帝……………	一八一
五八	軍備大擴張の目的……………	一八〇
五九	免れ難き英獨開戰……………	一八五
六〇	白耳義和蘭併呑企劃……………	二〇二
六一	英國傳來の仇敵は佛蘭西……………	二〇七
六二	噫々憫笑すべき擬造的強國……………	二〇九
六三	國民に對する朕が不満……………	二一一
六四	平和的世界統一の一手段……………	二一八

目次

二

六五	獨米戰とパナマ運河……………	二二五
六六	パナマ運河の價值……………	二二三
六七	米國海軍何者ぞ……………	二二三
六八	獨米海軍實力は一對十……………	二二五
六九	朕とビスマルク……………	二二九
七〇	第一にビスマルク滅首……………	二四二
七一	不忠漢ビスマルク……………	二四七
七二	慎重に判斷せよ……………	二四九
七三	ニコラス二世は人造皇帝……………	二五五
七四	朕は專制君主にあらず……………	二五七
七五	英雄偉人に對する敬意……………	二六〇
七六	朕は深く古文學を愛す……………	二六六
七七	波蘭人に對する政策……………	二六九
七八	最後の手段は殺戮……………	二七三
七九	獨逸人共通の敵……………	二七七
八〇	最も深く馬を愛好す……………	二八二
八一	之れ宿志を達成せんが爲なり……………	二八四
八二	其訓練と教育と方法……………	二八五
八三	何事も世界第一主義……………	二八六
八四	朕をして——たらしめば……………	二八八
八五	艦橋に立て航しつゝ……………	二八九
八六	埃甸征服と朕が決心……………	二八九
八七	埃甸國併呑機會……………	二九六
八八	淺薄無識の愚論……………	二九八
八九	獅子の志を知らざる鼠……………	三〇三
九〇	すべて神算すべて神籌……………	三〇五
九一	斯の如きを欲せず……………	三〇八
九二	世界唯一の親兵……………	三一
九三	無禮極る佛人の愚論……………	三二二
九四	佛蘭西の愚なる識者……………	三二六
九五	世界一の大活動家……………	三三九
九六	世界を動かす一顰一笑……………	三三〇
九七	教育上に於ける音樂の價值……………	三三三
九八	朕は音樂の大批評家なり……………	三三四

目次

三

目次 (終)

目次

九九 朕は大作曲家なり……………三五

一〇〇 朕は大演奏家なり……………三六

一〇一 戀愛と眞の英雄……………三七

一〇二 空前絶後の大皇帝……………三九

一〇三 意外に非ず神の意なり……………三三

朕が作戦

獨帝カイゼル著  
佛國クリユール原譯  
日本樋口麗陽譯

一 恐憂すべき日本人

朕は、恐慮すべき又憂慮すべきものの中、其大なるもの一つとして、日本人を記  
憶することに細心ならざるべからざるを思惟す。

日本は、我獨逸帝國と其國境を直ちに接觸し、自から強大國なりと認許し一等國な  
りと稱して傲然我隣壤に蟠居せる所の、露國よりも、佛蘭西よりも、奧洪國よりも、  
より以上の等級に位地すべき強大なる新興國なり。國民はより以上に恐慮すべき國民  
なり、多くの憂慮と充分なる警戒の必要を感じしむる國民なり、其實質上より見たる

恐憂すべき日本人



恐憂すべき日本人  
彼等日本人の現在に於て、將た又將來に於て——。

彼等日本人の國土は、極東に偏在して其領域亦狭小に、數個の島嶼より成立して而も東西に短に南北に延長せる國土の形狀は、之を軍事上の見地よりすれば一朝他國の優勢なる艦隊に襲撃せらるゝ場合に於て、防禦に多大の困難を感じ、同時に總ての領土を完全に保護し得るの甚だ容易ならざる困難あるを免かれず。

然し、彼等日本人は、歐洲人に比して毫しも劣らざる卓越せる頭腦と非凡の手腕とを有せり。彼等其國土の位地形狀より考覈研究して、海陸の軍備を充實し、完全に保護せんとすることに甚だ忠實なり。

日本は我獨逸帝國の如く軍國主義を以て世界の各國に接せんとしつつあり、日本國民は我獨逸國民の如く、軍國主義の國民たることに甘喜し又誇りとせり。彼等日本人は、現在の軍備を以て充分に總ての國土を完全に保護し得べしとは信じ居らざるべきも、尠くとも將來を期して一大軍國を建設し、世界的飛躍を試みんと、間斷なく準備をなしつつあり。

朕が極東に領土を擴張せんと、既に着手せる計畫の上にも、日本の理想と實行とは大なる障害を來すものあり、朕は近き將來に於て日本と衝突するの已むを得ざるべきを覺悟せざるべからず。

我獨逸國民が、恐憂すべき又憂慮すべきもの、大なる一つとして、常に其記憶の一角より忘却し又は剃ぎ去ることを得べからざるは是れが爲めなり。

彼等日本人は、其國土極東に偏在して、歐洲と往復するには數十晝夜を費して航行せざれば能はざる距離の不便を有するに拘らず、寧ろ不可思議なる國民として研究解釋を試みるの適當なる彼等日本人は、此の大なる距離と大なる時間とを無視して、盛んに歐羅巴文明を輸入吸収することに躊躇せず、而も彼等は之が爲めに倦むことなく撓むことなく、疲憊するの色無し。

彼等日本人は、人類の考へ得べき又爲し得べき範圍に於て考へられ爲されたることを、模倣し、應用し、利用し、研究し、發明することに於ても、其結果の完全なる速成的頭腦と手腕とを有す。

恐憂すべき日本人

日本が封建制度を破棄して立憲君主政體に改造して以來、未だ半世紀の時間を經過したるに過ぎず、而も彼等は此短少なる時間内に、歐羅巴の凡百文明を吸入して、彼等固有の文明と融和せしめコンデンスして、彼等獨特の文明を作れり。

彼等日本人は、歐羅巴人が非常なる困難と戦ひつゝ五百年の長時間を費し漸くにして爲せしことを、僅か五十年の短時間内に、迅速に且つ容易に爲し遂げたり。既に現在に於ける彼等の文明の程度は、其軍事的方面に於ても、政治的方面に於ても、經濟的方面に於ても、將た又學術的方面に於ても、其他凡百文明的物事に於ても、外形實質共に優に歐洲文明を凌駕せんとするほどの著しき進歩發達をなせり。

彼等日本人に、茲半世紀の時間を與ふれば、彼等が如何に驚くべき文明を形成するや、豫め測り難きものあるべきを信ず。

二 免れ難き日獨開戦

朕は日本の將來の最も恐憂すべきものなるを知れり、朕は日本が同人種たる朝鮮及

び支那を啓發結合して歐洲列國の極東に於ける勢力を驅逐せんとする決心あるを洞察せり、而して新興の銳氣を以て韓半島より漸次亞細亞大陸に其版圖を擴張せんとする宿志あるを知れり。

朕は日本をして亞細亞大陸に一指をも染めざらしめんことを計畫し、機會を得て決行せんと思惟せり、何となれば、日本が亞細亞大陸に領土を擴張して極東に覇を爲すは、朕が極東に領土を擴張せんとする計畫を非常なる困難に陥らしむるものなればなり。

日本は清國と開戦して清兵を驅逐し、遼東半島を占領せり。朕は露佛兩國と提携して、脅迫的干渉を試みて日本を制壓し、日本が割取せんとせし占領地遼東半島を還附せしめたり。

朕は神に感謝せざるを得ず、何となれば、神は清國をして日本と戦はしめたり、而して清國をして日本の爲めに戰敗國たる運命に陥れ遼東半島の割讓を日本に迫らしめ、朕をして日本に制壓を加ふるの機會を與へ、朕が極東侵略計畫を着手せしむる

免れ難き日獨開戦

第九卷 日獨開戦  
機會の到來を早からしめられたればなり。  
日本皇帝と日本國民は、朕及び朕と提携して干渉したる露佛兩國を怨めり、朕が一  
宣教師の殺害事件を機會として膠州灣を租借占領し、露佛英亦有利なる地點の租借權  
を獲得するに及んで、日本が朕及び露佛兩國を怨恨する熱度はより以上に高潮された  
り。

彼等日本人は歐羅巴人の常識を以て判断し得べからざる熱狂的國民なり、皇室と國  
家とに對する忠順と其忠順の爲めに生命を捨つること塵芥を捨つるよりも輕視するこ  
とは、世界何れの國民にも發見し得ざる特性を有する國民なり、復讐の爲めには僕を  
交ふるも遂行せざれば已まざる國民なり。

日本は朕を怨み、露國を恨み、佛國を憤ると同時に、徐ろに復讐せんと企畫し、  
機會の到るを待てり。而も彼等の機會を狙ふの熱心は、間斷なく發動し間斷なく高潮  
せり。

遂に日本は露國と開戦して復讐を遂げたり、十年來露國に對する憤懣の全部を晴せ

り、而して彼は露國の手より旅順大連の租借權を奪ひ、滿州鐵道布設權を奪ひ、猶ほ  
其領土の一部を割讓せしめたり。

日露戰爭に於ける露國の敗北は、日本をして愈々強大ならしめ、極東に於ける歐洲  
諸國の勢力を驅逐せんとするの念と、驅逐し得るとの自信の念とを高めしむる結果と  
なれり。

朕は日本が露國を敗りたる砲廠を朕に向けつゝあるを知る、朕は日本が朕が租借占  
領して極東經營の根據地となせる膠州灣を狙ひ、機到らば奪取して獨逸帝國が計畫實  
行しつゝある支那經營の雄圖を根本的に破壊し去らんとしつゝあるを知る。

朕は近き將來に於て日本と戦はざるべからず、日本が獨逸帝國に對する總ての態度  
は、朕をして戰を宣するの已むべからざるに到るべき順序を以て迫りつゝあり。

### 三 日本恐るゝに足らず

日本兵が戰に強きは、列國と共に朕も亦之を認識せざるを得ず、彼等日本人は歴

日本恐るゝに足らず

日本恐るゝに足らず  
史的好戦國民にして、又戦に強き國民なり、此點に於て日本國民と我獨逸國民とは  
稍相似たるものあるが如し。

彼等は其歴史的に戦に強き國民性を、對清對露の戦に於て、實戰的に訓練し、完  
全なる結果を收むる速成的不思議なる頭腦と手腕とは、驚くべき強度を増進せり。

日本が同一の程度に訓練せられたる精兵を、百萬以上動員して猶餘裕あるや否やの  
疑問に對しては、朕は否と斷言するの確證を有すれど、尠くとも五十萬を動員し得る  
ことは不可能にあらず。

而して其五十萬の兵を以てすれば、我獨逸帝國を除くの外、歐洲諸國の精兵百萬と  
交戦して遜色なきのみならず、苦もなく撃破粉碎するに充分なる強味あることは、争  
ふべからざる事實なるが如し。

頑強にして執着力強きこと牛の如き露國兵すらも、日本兵の悍猛なる突撃には、  
陣地を捨て、走るの外なかりしにあらずや、實に日本兵の死を顧みざる事と、其を根  
本とせる猛獸の如き勇敢なる突撃には、我獨逸帝國の兵以外には抗争し得ず。

又、日本の海軍は、其陸軍と共に我獨逸帝國の海軍を除きては、歐洲の何れの海軍  
と交戦するも敗るゝことなき實力を有す、世界一の海軍國を以て自任し、艦艇の數亦  
世界に冠たる英國海軍と雖も、日本海軍と戦ふ場合、其全海軍力を傾倒するも、日露  
戦争に於ける露國バルチック艦隊と畧同一の運命に陥るべきは、只だ單に、日本海軍  
に大戰畧家の多くを有すること、其の射撃術の巧妙精緻にして、殆んど膝氣と識別  
し得ざる遠距離にあつて射撃し、百發百中せしむる技術を有するに據りて豫言する  
ことを得。

されど朕は毫も日本の恐るゝに足らざるを知る。日本陸軍の恐るゝに足らざるを知  
る、日本より劣勢なる兵力を以て戦ふも、見事に日本軍を粉碎し得るを信す。日本海  
軍と交戦するも、露國のバルチック艦隊と同一の運命に陥らず、寧ろ日本艦隊をして  
露國のバルチック艦隊と同様な運命の下に撃破することの容易なる確信を有す。

朕は決して感情的に日本の恐るゝに足らざるを思ふにあらず、朕は數十年來巨細に  
日本を研究せり、朕親ら研究すると共に臣に命じて研究せしめ、其實質實力を檢査し  
日本恐るゝに足らず

日露戦争に徴せよ  
て、現在に於ても將來に於ても、決して恐るゝに足らざるを確かめ得たり。

#### 四 日露戦争に徴せよ

日本は恐憂すべき國にして又恐憂するの用なき國なり、朕は日本が清國と戦ひて以來、露國と交戦するに至るまでの間は、日本を恐憂し、或は外交手段を以て、或は軍備の擴張を以て、日本を威嚇し、牽制し、壓抑せんと力めたり。

されど、朕は日露戦争によりて、日本の毫も恐憂するに足らざるを確かめ得たり。朕は神に感謝す、日本をして露國と開戦せしめ、日本の真相を看取し得るの機会を朕に與へ、而して朕をして日本に對する恐憂の念を全然一掃せしめたることを。

朕は、日本が露國に戰を宣したる當時、日本が露國の國力を誤算せると共に、自らを過信したるものと思推せり、露國の爲めに日本が粉砕せらるべくして、日本の爲めに露國が粉砕せらるべしとは豫想せざりき。

然れども事實は相違したり、不思議にも相違したり、粉砕せらるゝの當然なるべき

日本が、却つて粉砕せられざるの當然なるべき露國を粉砕せり。  
朕は益々日本の將來恐憂すべき國にして、黃禍は早晚白人國の頭上に落ち來るべき平生の所信を、益々鞏固ならしめたり、戦勝後の日本が富國強兵に全力を傾注せば、歐洲諸國の東洋に於ける勢力は驅逐せらるゝの運命に至るべきを豫想せざるを得ざりき。

然し聽て朕は朕の恐憂が一の杞憂に終るべかりし事實を確かめ得たり、日本は現在に於ても將來に於ても、朕が軍國主義を固執して變更せざる以上、決して恐るべきにも憂ふべきにもあらざる國なることを充分に窺知するを得たり。

日本は戰に勝利を得たり、されど最後に於て敗北せり。日本は兵強くして國弱き真相を曝露して列國の眼前に自白せり。見よ、ルーズヴェルト米國大統領の仲裁を以て媾和せんとする時の光景を。露國全權大使ウイツテ及びローゼンの傲慢なる言動に對する日本全權大使小村、高平二者の態度戦々恟々として言動の振はざることは、露國が戰敗國なるや日本が戰敗國なるやを疑はざるを得ざる程に、日本の態度は溫柔と

日露戦争に徴せよ

云はんよりは、寧ろ怯懦に近きものなりしにあらずや、紳士的と云はんより寧ろ屠所に曳かるゝ羊的なりしにあらずや。

日本の眞相

而も其の談判の経過を見よ、而して其の結果を見よ、彼れ日本は一馬克の價金をも取得し得ざりしにあらずや、眇たる一薩哈噠島の全部をも割譲せしめ得ざりしにあらずや、戦に勝てる日本は、戦に敗れたる露國に對して、戰勝國的態度にあらずして、引分的以下の態度と讓歩をなして媾和條約を締結せるにあらずや。

朕は日本に對して恐るゝを要せず、憂ふることなし、彼れは兵強くして國弱き國なり、彼れは始め脱兎の如くして終り處女の如き國なり、日本は兵のみを以てすれば恐るべき勁敵たるも、國家としては征服するに易々たるの弱國なり。朕は恐れず、斷じて恐れず、朕は憂慮せず、斷じて憂慮せず。

747

### 五 日本眞相

日本は露國との談判に屈服的讓歩をなして辛ふじて露國の承認を得、屈辱媾和をな

したる理由を斯くの如く言へり。

米國大統領は人道の爲め世界平和の爲めに戦争を止せしめんと熱望し、既に其熱望によりて媾和會議を提議し、尙談判の破裂せんことを恐れて露國に讓歩を勸告し、極力和議の成立に盡瘁せし好意に對して、日本政府は重大條件の一たる軍費拂戻の要求までも拋棄せるに拘らず、僅かに薩哈噠島半部の讓與を吝みて、談判を破裂せしめ、戦争を繼續するは、即ち米國大統領の好意を無視し、盡力を水泡に歸せしむる所になるが故に忍び得ざること。又一つには米國は勿論、歐洲列國は如何にもして戦争を止せしめんと切望し居るが故に、今若し日本政府が薩哈噠島分割問題を以て媾和會議を無意義に終らしめ戦争を繼續すとせば、今日まで得たる列國の同情を失ふに至るべきを顧慮したる結果なり、と。

之れ屈辱的醜態を誤魔化さんとしたる裝飾的聲明に過ぎざりき、而して恰かも癩病患者が自己の腐肉の見られんことを懼れて、美服を纏ふに等しき、幼稚なる頭腦より割出せし淺薄なる辯護なりき。

日本の眞相

日本の真相

癩病者の美服が聴ては其甚しき臭氣と腐肉と膿汁との爲めに露顯するに至ると等しく、日本も聴て其屈辱的構和を爲すの已むを得ざりし根本原因、重要なる理由を自らの口と事實とに依りて白狀するの已むなきに至れり。

日本が戦勝國にして如何なる要求をも爲し得る位置にあるにも拘らず、露國の強硬なる不同意に讓歩して、屈辱的構和を成立するの已むを得ざりし重要なる理由は、談判破裂より來るべき戦争繼續の狀態と、其結果との憂慮にてありき。

日本が徹頭徹尾其要求を貫きて國民の満足を買はんとすれば、結局談判を破裂せしめて戦争を繼續するの外なきを覺悟せざるべからず。戦争を繼續せんとすれば勢ひ更に軍備を大擴張して、少くとも四十萬乃至五十萬の兵士を徵集せざるべからず。日本の壯丁數と現在軍備の程度とより見れば、四十萬乃至五十萬の兵士を新たに徵集することは甚しき困難にてはあらざるべきも、其兵士を指揮し首腦となるべき將校は如何にすべき、兵士を徵集して速成的訓練を施し、直ちに之を補充し得るが如く、斯く容易に實際の戦闘力を具備する將校は作り得らるべきにあらず。

將校なき軍隊は首なき人體と撰ぶ所なき、所詮無意味の軍備擴張たるを免かれず。日本が殆んど絶對的に平和を希望し、屈辱的なるをも猶能く忍んで構和を成立せしめんとせし重要なる理由の一つは、將校補充難にてありき。

日本が戦争を繼續して、露軍を哈爾濱以北に驅逐せんとすれば、自然陸上に於ける戦線を擴張せざるを得ず、陸上の戦線を擴張すると共に、海軍に於ても範圍を擴大して浦鹽斯德を攻撃せざるべからず、日本が旅順要塞攻撃に於ける如く、多大の犠牲を拂ふを辭せずして浦鹽斯德を陥落し、陸上の露軍を哈爾濱以北に驅逐し得たりとするも、露國は決して日本に降服することなからん、日本が屈辱的條件を忍んで構和するの已むを得ざるに至れる重要なる理由の一つは此處にも發見せられる。

日本が増兵計畫を爲さずして飽くまでも露國と戦はんか、これ自ら死地に陥るものにして、遂に戦敗國たる不名譽の下に國家の存立を危くせざるべからず、日本が屈辱的構和を爲さざるを得ざりし重要なる理由の一つは是にも存せり。

日本は決して財政の豊富なる國にあらず、最後まで露國と戦はんとするの勇氣あり

日本何をか爲し得んや

とするも、兵士の補充をなし得るとするも、一年を出でずして財政の破綻を來して敗れざるべからざるの財政状態に窮迫せり、之れ日本が屈辱的條件の下にても和議を成立せしむるの已むを得ざりし重要なる一理由たるなり。

露國は日本の實力を誤算して挑戦し、遂に敗戦の汚名を自ら冠するの結果を買ひ得たるも、朕をして日本兵の特長と缺點とを研究するの機會と材料とを供給し、朕が對日作戰計畫上に多大の利益を與へたり。

朕は日本兵よりも缺點少くして特長の多くを有する朕が陸海軍に、日本の特長を應用して、より以上優良なる陸海軍を作ることを得たり。

### 六 日本何をか爲し得んや

朕は何時にても日本と戦ふを辭せず、朕は日本の實力を確實に知れり、日本が百萬の兵を戦線に動かすこと殆んど絶對に不可能なる真相を詳知せり。日本は其財政状態に於て斷じて一等國の伍班に列するの資格無し、二個年以上に亘りて戦を繼續すれ

ば、日本如何に兵勇敢精銳なりとも、先づ第一に財政の窮乏に因りて屈服するの外無し。

日本が日露戦争によりて受けたる經濟上の打撃は、之を回復するに於て露國よりも遙かに容易ならず、露國が十年にして恢復し得とすれば、日本は僅かに十五年乃至二十年の長さ時間の艱難を要す。

日本は既に露國との戦に於て、而も二個年に足らざる短期間の戦に於て、軍事財政共に非常の疲勞を來せり、寧ろ極度の困憊状態に陥れり、露國にして今半個年を耐忍して續戦せば、日本をして容易に降服せしむる好果を收めたりしならん。

朕は何時にても日本と開戦することを辭せざるべし、されど日本は今後十年乃至二十年間は戦を欲せざるべし、何となれば彼れは露國との戦に於て受けたる國力の重傷を醫して、日露戦争當時の國力に回復するに十年乃至二十年の時間を要すればなり。

日本は外國と戦ひ又戦はんとするには注意周到用意綿密なり、日本人は露國人の知く、自己を過信すると共に對手を誤算する國民にあらず、自己の實力を自覺して對戦

日本何をか爲し得んや



日本何を為し得んや  
國の實力を精確に計算し、充分の勝算あるの見込立たざれば起て干戈を執らざるの國民なり。

露國が日本に挑戦して敗れたるは、自己の實力を過信し日本の實力を誤算したる結果にあり、日本が露國に勝ちたるは自己を自覺し露國の實力との比較計算に於て誤算なかりしが故なり。

日本は我獨逸帝國が歐洲に於てのみならず、世界に於ける唯一の軍國なるを知れり經濟上の點より見るも、軍事上の點より見るも、一として日本の我獨逸帝國に優越せるものなく、常に一二等の差あり距離あることを知れり。日本が未だ容易に我獨逸帝國に挑戦し得ざる所以に存す。

日本は我軍國主義を猜疑嫉視せる英國と同盟して、露國の復讐に備ふると共に、我獨逸帝國の極東政策に制壓を加へんとしつゝあり。されど對獨的日英同盟と其連繫運動とは、毫も朕をして恐懼せしむるに足らず、朕をして極東經營の念を斷たしむるには殆んど何等の力なし。餘りに微弱なる同盟力なり。

英國の如きは日本以下に恐るゝの要なき國なり、彼れは世界一の大國なりと稱す、彼れは世界一の海軍力を擁する強國なりと吹聴す、世界に於ける經濟界の中央集權を掌握せりと聲言す。之れ恰かも張子の巨砲を遠望せしめて敵を威嚇せんとするに等しく、總ての接戦に於て敵の失笑を買ふに過ぎず。

朕は既に日本の恐憂するに足らざるを知り、又其同盟國たる英國が張子の巨砲に等しき國にして日本以下に見積りて誤算なきを知れり。朕は彼等が朕が極東經營に妨害を試み、朕が帝國の利益と名譽とを犯し侮辱を加ふるの舉に出づることあらば、直ちに彼等の頭を粉碎する實力と勇氣と決心とを有す。

朕は此實力と此の決心とを以て極東を經營す、己れを知るに賢なる小日本、また何をか爲し得べきぞ。

### 七 眼の上の瘤は日本

我獨逸帝國が、膠州灣を策源地として極東經營を進むる上に於て、妨害物となりつ

眼の上の瘤は日本

眠の上の瘤は日本  
つあるもの露國あり、米國あり、佛國あり、されど朕は其等の國よりも、先づ支那と  
同文同種の日本あることを忘るべからず。實に日本は我獨逸帝國の支那殖民地經營に  
於ける眼上の瘤なり、朕は常に、彼れの巧妙なる外交術によりて、妨害され沮止さ  
れつゝあり。彼れは常に自己の野心を隱蔽する美服として東洋永遠の平和と支那の領  
土保全とを以てせり。列國は我獨逸帝國の勢力を嫉視し、之を極東より驅逐せんとし  
て、常に日本に加擔して東洋永遠の平和と支那の領土保全とを唱へ、獨逸帝國の經營  
進歩上に大妨害を加へつゝあり。

朕は忍ばん、或る時期の來るまでは忍ばん、可成的戰爭の慘禍を避けて版圖擴張  
の目的を達するの伶俐なるに如かず。

朕は已むなくば露國と戦ふを辭せず、英國と開戦するを拒まず、米國と戰場に唯  
雄を決するに躊躇するものにあらず、されど忍ぶべき限り忍びて我利益の獲得に力む  
るは、開戦して國力を減殺するに比して迥かに有利なり、朕は忍ぶべき限りを忍び、  
堪ふる眼りを堪へんと欲す。

然し、日本は依然として有力なる眼上の瘤なり、彼れは其本國を極東に有するの利  
便より、他列國に比して我獨逸帝國の經營に妨害を加ふることを甚し。朕は早晚日本  
と戦はざるべからず、之れ勢ひの已むべからざるものあればなり。

外科醫が腫物に刀を加ふるは其腫物の化膿したる時期を以て適當なる時期となす、  
朕が眼上の腫物たる日本は、未だ化膿期に達せず、日本てふ腫物が化膿期に至れば、  
我獨逸帝國に非常なる疼痛を覺えしむ、此に於て始めて朕は外科醫の腫物に對するが  
如く、劍を執て日本てふ大腫物を切開せざるべからざる時なり。

### 八 朕は黃禍論者なり

汝等は知らざるべからず、我等の東方に亞細亞大陸の連れることを、而して其大陸  
は我等と全然種を異にせる黄色人種を以て充滿されあることを、而して又日本てふ  
黄色人種の組織せる新興國が儼然として存在せることを。

汝等は其等のすべてを記憶より忘れざるに力むると共に、彼等黄色人種が過去に於

朕は黃禍論者なり

朕は黄禍論者なり  
て爲せしことを考へざるべからず、彼等が現在何を爲しつゝあるか爲さんとしつゝあるかを注意せざるべからず、而して彼等が將來に於ける文明の建設と、其文明を利用して爲さんとすることを考慮せざるべからず。  
支那は老國にして現在に於ても將來に於ても、何の爲す所なしとして安心すべからず、支那一國のみを放任し置かば、或は汝等の思惟することく、何事をも爲し得ざるやも知らず。されど汝等は支那と同文同種の日本あることを以て其將來を觀測するを要す。

見よ、彼れ日本は最近五十年間に何を爲したりしやを、彼等は汝等が五百年を費し而も非常なる困難と危険とを冒しつゝ形成したる歐洲文明を、僅々五十年の短かき時間内に而も甚だ容易に之を輸入し咀嚼し融和し、彼等獨特の文明を作りしにあらざるや、彼等は今やすべての點に於て汝を凌駕せんとして努力しつゝあり。

彼れ日本は、自衛的或は侵略的野心より、隣邦支那の啓發に盡力しつゝあり、支那亦日本に信頼して其指導の下に國力を充實せんとしつゝあり。

汝等が黄色人を目して、東洋の天地にのみ蠢動し、決して其圏外に出でざるものと思はゞ、甚しき早計にして又大なる誤見なり、彼等は汝等白色人に劣らざる素質を有する人種あり、汝等は古代史を讀みて、黄色人中の偉物が、懸軍萬里、歐洲を蹂躪せし事一再にあらざりしを記憶せるならん。汝等の祖先が彼等の脚下に齧伏して降服せし事實を、汝等は歴史のページより一部分たりとも抜き去り切り捨つること能はざるべし。

汝等の光輝ある歴史は、既に業に彼等黄色人の爲めに、其遠き古代に於て汚されたり、汝等の祖先は彼等黄色人の爲めに百凡侮辱を加へられたり、あらゆる暴逆を恣にせられたり。

汝等は決して黄色人を汝等以下數等にある劣等人種として輕視すべからず、汝等は彼等が何事をも爲し得ざる無能力人種として蔑視することを止めざるべからず。

小日本何をか爲し得んと思ふ勿れ、老大疲衰の支那を白痴的廢國と輕々に看過する勿れ、日本は既に露國と戦つて露國を敗れり、彼等の武力決して侮るべからず。日本は

朕は黄禍論者なり

朕は黃禍論者なり  
既に汝等の方明を殆んど全く吸収し盡せり、彼等の知識は決して汝等に劣らず、彼等は卓越せる頭腦と手腕とを有す、彼等は此頭腦と手腕とによりて汝等に對して逆襲を爲さんと企圖しつゝあり。

汝等白人は早晚彼等黄色人の逆襲を受くるの覺悟あるを要す、汝等の頭上に彼等の大鐵槌の落下し來ることあるべきを豫想するを要す。汝等は古代に於ける汝等の祖先の如く彼等の前に叩頭して降服せざることに注意し、彼等の逆襲を撃退する武力の養成をなさざるべからず。

汝等は此危険なる異色人種の前に叩頭するを好まざるべし、征服せらるゝを欲せざるべし、歐洲の天地をして彼等の支配下に置くに賛成ならざるべし。

汝等が此異色人種に對して、永久に安全なる眼りを爲し得る法は、只一あるのみ、即ち彼等の全部を汝等の脚下に置き、汝等の支配下に屬せしめて、彼等を白人以上に出でざらしむるにあるのみ。

汝等は彼等をして國を失はしめざるべからず、彼等が據て以て白人征服の策源地た

る領土を沒收せざるべからず。

彼等をして世界の表面より除却し去ることは、只だ殺戮するの外なし、されど彼等の數は五億萬の多きを數ふ、之を悉く撲滅し盡さんは、餘りに慘酷なるべし、又其は言ふべくして行ふべからざる不可能事に屬せん。

汝等は自覺せよ、惰眠より醒めよ、而して恐るべき黃禍を思へ、而して彼等を征服し汝等の脚下に蹂躪せんことに力めよ。

### 九 臺灣島を奪はん

朕は極東計畫の第一着手として膠州灣を得たり、而して現在に於ては一定年限の約束を以て租借せるに過ぎざるも、固と之れ支那蠶食の第一歩のみ、朕は租借年限満了するも、決して支那に還附することを爲さざるべし。

朕は膠州灣を策源地として漸次北支那を蠶食せんとする宿意なり。今や朕が計畫は着々進捗しつゝあり。

臺灣島を奪はん

臺灣島を奪はん

朕は日本の恐るゝに足らざるを看破せり、朕は歴史的に日本と開戦の避くべからざる事情あり、日本亦朕に對して砲煩を向けつゝあり、日獨の開戦は早晚事實となつて現はるべし。

日本と開戦するに至らば、日本は必ずや我根據地たる膠州灣を襲撃すべし、之れ明かに豫想し得る處なり、朕は朕の東洋艦隊をして臺灣島を占領せしめん、之れ南方に於ける日本の致命を制すると共に、朕が將來に於ける南支那侵略上に大なる必要あればなり。

我獨逸帝國が、日本の臺灣島を狙ひつゝありとは、機敏なる日本人も未だ感知せざるが如し、膠州灣の經營に熱中せるもののみ思惟せるが如し、朕は膠州灣を策源地として北支那を窺ひつゝあるは事實なるも、また南支那經營上日本の臺灣島を奪はんとするの念あるも事實なり。

日本人は正直なり、朕は日本人の正直なるを利用して外交手段により、充分彼等を籠絡し得たり。日本人は戰に強きも外交術には頗る幼稚拙劣なり。

朕は臣に命じて、軍事上政治上經濟上の三點より踏査研究せしめたるに、臣は能く朕が命を服膺して、あらゆる辛苦を嘗め、あらゆる艱難と危険と戦ひ、殆んど一年を費して歸國し、踏査研究の結果を詳細に報告せり。

朕は朕が思惟せしが如く、臺灣島が支那經營に就て、軍事上、政治上、經濟上頗る重要な價值あることを確め得たと共に、朕が臺灣島奪取計畫の念を愈々強からしむるに至れり。

單に經濟上の點より見るも、臺灣島は一大寶庫たるを失はず、日本人の手に依りて既に發見せられ、計畫せられ、開拓せられたるものを除くも、大なる實は中央を連互せる山脈の中に包藏せられてあるなり。

日本は未だ生蕃の討滅に汲々として、此山間に無限無盡の大寶庫あるを發見する餘裕なきものの如し。或は日本が生蕃を討滅し終るも遂に此寶庫を發見し得ざるやも知れず、朕は近き將來に於て、支那の山東省全部を占領すると共に、日本の臺灣島を占領せるべからず。

臺灣島を奪はん

一〇 あ、歐洲の民よ

あ、歐洲の民よ、今や汝等の頭上には恐るべき黄色の悪魔が、汝等を塵殺すべき強烈なる爆弾を手にして迫りつゝあり、而も刻々に迫りつゝあり、汝等は危険なる黄色の悪魔に呪はれつゝあるなり。醒めよ覺れよ、あ、歐洲の民よ……。

今や汝等は平和なる文明の風に吹かれ、永夜の歡樂にのみ酔ひしれて、美しき夢に耽る時にあらず、美酒を飲み美女と相擁して、美しき光と美しき花と其他の美麗なる裝飾を以て充されたる舞踏場に踊り狂ふ時にあらず、汝は美酒を棄て美女を捨て踊るを止めて美しき夢より醒めて、劍を磨き戟を銳利にして、汝等の頭上を襲はんとしつゝある黄色の悪魔を撃退するの用意をなすべき時なるを覺らざるべからず。

汝等は汝等の生命と財産とを國家にのみ一任して保護せしむべからず、汝等が汝等の生命と財産との保護を國家にのみ一任して惰眠を貪らば、汝等は遂に生命を失ひ財産を掠奪されざるべからず。

國家が汝等の生命と財産とを保護するは國家の武力が侵襲せる敵に優れる時に於てのみ限り、汝等は國家の武力が敵の武力に堪へざるに至れば、汝等の生命と財産の保護力を失し、敵の暴逆と掠奪とを恣にするを如何とも爲し能はざるを知らざるべからず。

あ、歐洲の民よ、汝等は汝等の生命と財産とを國家に保護せしむると共に、汝等も亦國家を保護し、國家を安全ならしむると同時に汝等の生命と財産との安全を一層確實にせざるべからざることを忘るべからず。あ、歐洲の民よ、汝は醒めざるべからず醒めて而して劍を磨き戟を銳利にせざるべからず。

一一 汝の敵は黄色の悪魔

歐洲の民よ、汝等の敵は常に歐洲にのみ有りと思ふべからず、汝等の敵は常に近き處よりのみ來るものと速断すべからず、汝等の敵は汝等と色を同ふせる白人中の平和破壊分子とのみ想定すべからず。

汝の敵は黄色の悪魔

汝等の敵は世界の到る處に潜めり、汝等の敵は近き處にあらずして萬千里の距離を有する國土に住せり。汝等は汝等と色を異にせる人種は總て汝等の敵なることを知らざるべからず。就中、亞細亞の殆んど全部に跋扈せる黄色人等は、汝等を殺戮して國土を奪はんとする大敵中の最も恐るべき大敵たることを造次にも頓肺にも忘るべからず。汝等は常に心に黄色の惡魔てふ一語を繰返し居らざるべからず。

汝等は汝等の新しき部分の記憶に深く印象し居るべき筈なり、歐洲強大國中の第一位に推されたる露國を粉碎して、其極東に於ける計畫を根本的に破壊したる爆彈の如き日本が、黄色人にして而も黄色人種中の先覺なることを――。

今や爆彈的日本は、同文同種たる隣邦支那を覺醒せしめて白色人に對抗せんとして頻りに努力しつゝあり。日本の努力奏効して、支那が眞に覺醒し、富國強兵に到らば其結果は如何！。

支那は其領域殆んど亞細亞の大部分を占め、全面積四百有餘萬方哩に互り、人口無量四億有餘を包擁せり。其全人口の百分の一を以て常備軍を編成するも優に四百餘萬

を算すべく、戦時に際して豫備後備を増加せば、無量一千萬の精英を動員すること、蓋し易々たる事なからんのみ。

支那を覺醒せしめつゝある日本人は血を好み戦を好み國民なり、汝等が了解し得ざる程に血を好み戦を好み國民なり。皇室と國家との爲めには如何なる大犠牲を拂ふも悔ひざる國民なり、彼等は其皇室と國家との爲めには、汝等が汝等の常識を以て判断し得ざる程に生命を抛つことを意とせざる國民なり。

血を好み戦を好むこと汝等が美酒を好み平和を好むが如く、生命を輕視すること汝等が腐敗したる食物に對するが如き日本人によりて刺戟され覺醒せしめられつゝある支那は、日本人の如く戦を好み血を好みて生命を輕視する國民にあらずと雖も、固と之れ日本人と同系統に屬する黄色人種なり、覺醒する程度に比例して漸次戦を好み血を好み生命を輕視する爆彈的國民となり行くことは、殆んど説明を加ふるの要なきまでに明白なり。

汝の敵は黄色の惡魔

此域に達すれば彼等は汝等白色人と同等或はより以上の位置に立たんことを欲する

戦慄すべき黄禍  
なるべし。汝等白人をして彼等の領土に一指をだも染めざらしむるに至るべし。而して彼等は總て一千餘萬の大陸軍と、數千萬噸の大海軍とを提げて歡樂に耽溺しつゝある歐洲に殺倒し、汝等をして干戈を執つて起たしむる邊なからしめんとするに至らん。汝等は彼等の銳鋒を挫き得と信するか、汝等の武力は彼等の襲來を撃退して、國土を安全に保護し得と信するか、汝等は彼等の如く血を好み、戦を好み、生命を輕視し、大犠牲を拂ふて悔ひざるを得るか、汝等の遺傳と習慣とは果して此決心と此行動となさしむるを得るか。あゝ恐ろしき黄色の惡魔！

一一 戦慄すべき黄禍

歐洲の民よ、朕は汝等に黄禍の如何に戦慄すべきものなるかを豫言するに躊躇せざるべし。

あゝ文明國を以て誇る歐洲の民よ、汝等今黄禍の恐るべきを覺知して備ふる所なくんば、汝等が誇れる文明の國土は爆彈の如き黄色の惡魔に蹂躪せられん。斯く

ても猶汝等は黄禍を信ぜずと云ふや。

あゝ優良民族を以て任ずる白色の民よ、汝等今黄禍の戦慄すべきを看破して劍を磨かざれば、彼等の爲めに粉碎され、敗衄の汚名を蒙るのみか、汝の祖先が彼等の祖先に爲したると等しく、彼等の脚下に唯伏して哀を請ふの外なきに至らん。斯くても猶ほ汝等は黄禍を夢想に等しきものと言ふや。

あゝ貴き聖物を有し寶物を積藏し、日三竿なるも猶未だ曉の夢を貪りつゝある歐洲の民よ、汝等今にして黄禍の戦慄すべきに驚き、聖物と寶物とを保護するにあらずんば、黄色の惡魔は迅雷の如く襲ひ來りて、汝等の聖物を汚し寶物を掠奪すべし、斯くても猶ほ汝等は戦慄すべき黄禍を忘想狂的空想なりと斷ずるや。

頑迷なる歐洲の民よ、汝等は昔て朕が黄禍に關する一書を以て汝等を覺醒せんとせしことを——遙かなる地平線の基督教會堂の上に、焰と煙の中に佛陀の像を高く聳えしめ、其繪の下に「歐洲の民よ、汝等の聖物と寶物とを保護することを準備せよ」と書き、汝等を警醒したることを——記憶せるなるべし。



戦慄すべき黄禍

老大國にして弱き支那は隣邦日本の刺戟によりて革命的氣運に向ひつゝあり、彼等四億の民が、覺醒したる新政府の下に統御せられ訓練せられ、四百萬の貔貅と數千萬噸の艦艇とを擁するは、左程に遠き將來にあらず、而して朕が描かしたる黃禍畫の事實となりて歐洲の天地を驚かし、汝等の顔色をして蒼白と變ぜしめ、周章爲す所を知らざる慘況を見るも、亦甚しき年月を経過したる後にてはあらざるべし。

醒めよ、覺めよ、歐洲の民よ！、歐洲を征服せんとするは黄色の惡魔なり。白色人を殺戮せんとするは東洋の黄色人なり、歐洲の國土を蹂躪し、婦女を辱しめ、寶物のすべてを掠奪せんとするは黄色人なり、あゝ戦慄すべき黃禍なるかな。

汝等は思はざるべからず、生を衛らざるものは病魔に襲はれて斃れ易く、武備なき國民は外敵に襲はれて征服せられ易きを――。

汝等を殺戮し、汝等の死骸を流血に漂はしめ、猶ほ將來永久に汝等の頭上に暴戻なる壓迫を加へても、懼ざるを思ふ黄色の惡魔の、戦慄すべき憤懣なる喊聲は、今や潮の知く東洋の天地に瀰蔓しつゝあり。

彼等が一千萬の大陸軍と數千萬噸の大海軍とを提げて、歐洲に殺倒し、汝等が知れる恐ろしき何者よりも、より以上に恐しく戦慄すべき威聲に驚かされ、汝等が想像だも及ばざる大殺戮の慘狀に慄え上らざるを得ざる事實の慘劇は、一世紀以内に現るべく迫りつゝあり。

汝等は暗黒なる夜の明け放れて、美はしき陽光の下に新なる歡樂と微笑と平和とを味ひつゝ、謳歌し舞を幸福と思惟せるや。

汝等が幸福と思惟せるは聽て大なる不幸たることを知らざるべからず。歡樂に満てる平和なる時間の経過は、恐るべき黃禍の近づきつゝあるなり。一分は一分と一秒は一秒と、黄色の惡魔は汝等に近づきつゝあるを知らざるべからず。汝等の光輝ある國土は蹂躪され、汝等の誇れる聖物は汚され、汝等が擁せる寶物に掠奪され、汝等は一切の繁類を卒ひて彼等の奴隸となり、凡百虐待に泣かざるべからざる時は、汝等の生活の時間を示しつゝある時計の刻み行くセコンドと共に迫りつゝあるを知らざるべからず。

戦慄すべき黄禍

全歐に盟主たらん  
怜悯にして愚鈍なる歐洲の民よ、汝等は其の愚鈍てふ不要にして危険を誘致する部分と、汝等の頭腦の一角より除き去らざるべからず。

未だ視覚を失はざる盲目なる歐洲の民よ、汝等は現在に於て幸福にして將來に於て不幸なる盲せる兩眼を開いて刮らざるべからず、眞なる覺醒に於て刮目し、慧敏なる視覚を活動せしめざるべからず。

あゝ歐洲の民よ、汝等が黃禍を覺知せざる間は、汝等は賢なるが如くにして愚なり敏なるが如くにして鈍なり、視覚あるが如くにして盲目なり。あゝ憫むべき歐洲の民よ――。

### 一三 全歐に盟主たらん

朕は常に思ふ、世界は統一せられざるべからずと、其統一は共和制的結合の下に統一せらるゝにあらずして、神の使命を有する大皇帝の下に統一せられざるべからず。朕が隣邦佛蘭西と如何なる口實の下に開戦して征服せんかと、居室に在つて獨り思

考畫策しつゝありし時、神は忽然として朕が眼前に現はれたり、而して朕に其先天的使命あることを告げたり。汝は眇たる佛蘭西一國のみの征服に汝の全精力を傾注する勿れ、汝は世界の大皇帝たるの使命を有せり、汝は獨逸國の皇帝たると共に全歐の皇帝たらざるべからず、盟主たらざるべからず、全歐の盟主たると共に又世界の盟主たらざるべからず、汝は神より授けられたる使命を全ふするに於て忠實ならざるべからず、佛蘭西征服の如きは使命を遂行すべき當然の事にしてまた其の一端のみ……』と。

朕はビスマルクを一室に召して、夢なるべきか或は妄想の類なるべきかを語れり。ビスマルクは、陛下よ、其は夢にあらず、又病的妄想にあらず、慥かなる神意なり、臣も亦陛下と同日同刻に神意を受けたり、汝ビスマルクよ、汝の皇帝は全歐の盟主たるべき使命を有せり、彼れは其使命を遂行すべく計畫し行動すべし、汝は皇帝の計畫に參し行動を補佐し、汝の皇帝をして使命を遂行せしめざるべからずと。

朕が全歐の盟主たるべきは、夢にあらず、妄想の類にもあらず、使命なり、神意の

全歐の盟主たらん

全歐の盟主たらん  
欲する處なり。朕は獨逸一國のみを安全に統治する事のみを棄て、全歐の盟主たるべく計畫し行動せざるべからず。

佛國は普佛戰爭敗衄の恥辱を雪がんとして、我獨逸帝國を狙へり、普佛戰爭によりて失ひたるアルサス、ローレン二州の奪回を畫策し居れり、されど、彼れは此目的を果し得ずして朕が馬蹄に蹂躪せられ、其全國土を擧げて朕が領土の一部と化せざるべからず。

奥國は我獨逸帝國と深き關係の下に繋がり來りて存在せり、されど彼れも佛國と連命を同ふせざるべからず、奥國皇帝は朕が命令を奉ずる一王とならざるべからず。大陸軍國を以て驕れる露國も、大海軍國を以て睥睨せる英國も、其他歐洲に國を成せる國は残りなく征服せざるべからず。

朕が全歐の盟主たるは、朕が野心より出でたるにあらざして、神より與へられたる使命なるが故に、神は朕が如何なる艱難に遭遇するも、朕をして極度の失敗に陥らしむることなきを信ず。

朕が陸海軍は朕が此使命を遂行する上に於て十分に信頼するに足る。朕が兵は日本兵の如く勇敢にして獍猛なり、朕と國家の爲めには貴重なる唯一の生命を鴻毛の輕さに比して敵と戦ふを辭せず、朕は此點に於て朕が兵と日本兵とは酷似せる所多し、されど日本兵は蠻鼻を罷脱し得ざるが爲めに強なり、朕が兵は文明的に訓練されたるが故に強なり、日本の文明の度進歩せば、日本兵は現在の如く強ならざるべし、英國の如く佛國の如く伊國の如く西班牙の如く、其他の諸國の如く個人本位主義思想發達し、皇帝よりも國家よりも先づ自己の生命を保全せんとするに至るべし。

之に反して朕が兵は文明的に強なり、變化することなき強なり、朕は如何なる點より見るも朕が陸海軍の強度は適かに日本の上にあることを信じて疑はず。

朕は世界に冠絶せる陸海軍を以て全歐を征服せんとす、而も朕が背後には神の庇護あり、朕が陸海軍は能く朕が命を奉じて敵と戦ひ、悉く之を敗るべし、而して朕が計畫は着々として進捗すべし。朕は近き將來に於て全歐を征服し盡して其盟主たらん。神よ、朕をして首尾能く使命を果さしめ給へ。

全歐の盟主たらん

普佛戦争は我獨逸大帝國を建設したる紀念戦争なりき。朕が祖父ウイルヘルム一世は世界有史以來殆んど類例なき大勝を得て、獨逸大帝國の基礎を固め、王位より帝位に陞れり。

普佛戦争は朕が祖父ウイルヘルム一世をして皇帝たらしむると共に、獨逸國民に光輝ある歴史を作らしめたり。國民は先帝ウイルヘルム一世の英邁なる英雄的頭腦と手腕とに信頼して、獨逸帝國の前途を祝福せり。

先帝ウイルヘルム一世は戰勝國たる大名譽を得て、佛蘭西をしてアルサス、ローレンの二州を割讓せしめ、猶ほ五十億法の償金を支拂はしめたり。

古今東西何れにか斯くの如き偉大なる名譽と効果とを收め得たる戰勝國ありや、國民が神の如く畏敬尊愛するに至りたるは、決して不條理にあらざりしなり。

之れ素より、ビスマルクの如きモルトケの如き智略縱横の臣ありて補佐したるにも

大英雄の資質は祖父の遺傳

### 一四 大英雄の資質は祖父の遺傳

大英雄の資質は祖父の遺傳

あれど、皇帝それ自身にして暗愚庸劣ならんには、果して斯くの如き絶大なる効果を獲收し得るやは疑問とせざるべからず。

朕が祖父は朕が全歐の盟主たる使命を遂行するに最も必要なる基礎を建設し給へり朕は、朕の祖父が獨逸大帝國を建設せられたるは全く神意を奉じて遂行せられたりとするも、祖父に對しては滿腔の敬愛と感謝とを捧げざるべからず。朕をして現在の幸福なる位地に置けるは全く祖父の賜にして他の何者にもあらざればなり。

朕が祖父ウイルヘルム一世は、其英邁にして果斷に富み、智略縱横端睨すべからざりし大英雄的頭腦と手腕とは、全歐に於て冠たりしのみならず、世界に於ても匹疇し得るものなかりき。

朕は自ら英邁なる、果斷に富める、思慮あり沈着なる、大英雄の資質を具有せることを信ず、而して此資質は、全く祖父より遺傳せられたるものなることを信せざるを得ず、而して又、朕の英雄的資質は全歐の盟主たるに好適し、全歐を自己の手足を動かせしむるが如く自由に操縦支配し得る手腕あることを確信せざるを得ず。

大英雄の資質は祖父の遺傳

全歐統一の順序  
神は獨逸帝國をして全歐の盟主國たらしめ、朕をして全歐の盟主たらしむべく、祖父は大英雄の資質を與へたり、而して其資質の全部を朕に遺傳せしめたり。朕が全歐に盟主たることを決して遇然的のものにあらざるは、之を以て明白なり。

一五 全歐統一の順序

朕は全歐征服の第一歩として、隣邦の驕兒佛蘭西を征服せざるべからず。奥洪白等の弱國よりも先づ第一着に彼れを粉碎して其全領土を沒收せざるべからず。之れ全歐統一の順序にして又朕が宿志たればなり。  
彼れは朕が祖父を怨めり、獨逸帝國を恨めり、ビスマルク、モルトケを怨めり、朕を猜視せり、彼れは普佛戰爭によりて領土を割讓せしめられ、五十億法の償金を支拂はしめられしを、骨髓に徹せしめて憤怒せり。  
普佛戰爭敗戦以來、彼れは國力の回復、軍備の充實に汲々として努力せり。彼れの軍備は我獨逸帝國に對する復讐戰を目的となしつゝあり。總ての訓練、總ての改

革は、如何にして獨逸を敗り得べきかを問題としてなしつゝあり。  
非常の刺戟によりて發奮したる非常なる決心と非常なる努力とは、非常なる結果を發表する場合多し。彼等は普佛戰爭の敗戦と其より生じたる大痛撃と非常なる刺戟に發奮して、非常の決心と非常なる熱心と努力とを蓄積したる結果は、遂に彼等をして其最後の目的を達するに必要なる準備の半を贏ち得るに至らしめたり。

今や佛蘭西は財政的方面に於ては充實せり、歐洲諸國は財政の豊富なる點に於て彼れに比肩し得るもの無く、我獨逸帝國も遂に彼れに凌駕せらるゝに至れり。  
戰勝國たる我獨逸帝國が財政的方面に於て敗戦國たる佛蘭西に凌駕せらるゝに至りたる原因は、朕が軍國主義の下に陸海の軍備を大擴張せる爲めに、幾分沮害したる傾向なきにしもあらずと雖も、其重要なる原因は國民が戰勝に酔ひたるにあり、戰敗の佛蘭西夫れ何をか爲し得んやと高を括りて緊揮せざりしが故なり。如何なる努力をなすも彼れは遂に我に勝つ能はざるものと思惟して油斷せしが爲めなり。

朕も亦獨逸大帝國が隣接して存在する限り、彼れは普佛戰爭の瘡痕は癒し得るとす

全歐統一の順序  
るも、遂に一等國たる實力を回復し得べしとは信ぜざりき。  
朕は兵力に於ては一撃彼れを粉碎し得るの確信あれど、彼れが財政的方面に成功するに至りたるは、實に意外とせざる能はず。

佛蘭西國民は最も贅澤を好む國民なり。而も贅澤を好み、贅澤なる生活をなすは、文明國民の誇なりと思惟せる國民なり。彼等は世界に於ける贅澤國民中の贅澤國民なり。されど、彼等は此極端なる贅澤を爲しつゝ、猶ほ全歐に於て第一位を占むべき財政の豊富なる國家たらしめたり。

されど朕は毫も彼れを恐憂せず、彼れは富國なれど強兵ならず、朕は一軍團を以て容易に彼れの二軍團乃至三軍團を粉碎し得る確信あり。コルセットを腰に挿入しに得意とせる墮落軍隊、何の恐るべき戰鬥力を有せるものぞ、彼等は徹頭徹尾朕が馬蹄に蹂躪さるべき運命の下に生れたるものなり。彼等は騙れる國民なり、騙れる國民は騙てじぶる國民なり。

### 一六 佛蘭西國民の真相

其國に於ける軍紀の嚴肅なるや弛廢せるや、其國の強弱を知る唯一のパロメーターなり、其國の貧富の如何は、其國民が勤勉なるや怠惰なるやを見て知るを得べし、克己心に富めるや淫逸に流れたるやを以て斷定することを待べし。

佛蘭西國民中、上中流の階級に生活せる者は、すべて腐敗し盡せり、墮落し了れり。殆んど救済の道なき迄に陥れり。

彼等は只だ美麗なる家屋に住ふことのみを知れり。彼等は只だ美麗なる裝飾品を以て其身邊を美化せんとすることのみを知れり。彼等は只だ美麗にして高價なる馬車を有し、自動車をも有せんとし、そのことをのみを知れり。彼等は只だ舞踏に音楽に觀劇に其他すべて剛健質實の分子は絶対に發見すること能はざる歡樂の巷に彷徨せんと欲するとのみを知れり。

彼等は其の都市に美麗なる建築物の多くを有せるを以て文明なりと思惟せり。彼等

佛蘭西國民の真相

佛蘭西國民の真相

は舞踏會音樂會の頻催せらるゝは、文明國の唯一の誇りなりと思惟せり。彼等は劇場の數の多きを以て文明なりと思惟せり。彼等は古き葡萄酒を貯藏するを以て文明國民の心得べき第一條なりと思惟せり。彼等は女性が貞節を嚴守せざるを文明國の女性の尋常事にして之を怪しみ咎むるは文明の何者たるかを知らざるものと思惟せり。彼等是不健全なる歡樂の追及を以て最も進歩せる文明國民の當然の權利なりと思惟せり。彼等は賣笑婦の數の多きを以て文明たる象徴なりとし、之を愉快にして誇りとすべきものと思惟せり。

彼等は何かにせば國家を富裕ならしめ得べきやを知らず、如何にせば武力を強大に爲し得べきやを識らず。彼等は驕奢淫逸なる風潮が國民の全軀に浸潤すれば、國家の存在を危くする原因を構成するものなることを知らず。

彼等は只だ不健全なる快樂の追求のみにして國家的觀念に至りては、殆んど其面影だとも發見すること能はず、彼等は爲政者と下級國民とが攻々汲々として努力しつゝある富國強兵とは全然没交渉なりと評するは、決して誤れる酷評と云ふべからず。

佛蘭西の下級國民は、中流以上の國民と異りて勤勉なり、中流以上の國民が、國辱回復、富國強兵を口にのみ云謂して少しも努力せざるに反して、彼等は實行に於て盡せり、佛蘭西今日の富裕は、慥に淫逸なる上中流の腐敗墮落國民の力にあらずして、眞面目なる爲政者と下級國民との賜なり。

衣食足らずして墮落するものは救済せんとするに多少の希望ありと雖も、衣食足りて墮落腐敗せるものは絶望の外なし。佛蘭西の上中流國民は衣食足りて墮落腐敗せる國民なり、彼等は救済せんとするに全く絶望なり。

無智無學者の腐敗墮落は有智有學者の指導盡力によりて覺醒し得べし。されど智識あるものの腐敗墮落は無知識者を以て救済覺醒し得るの希望を繋ぐべからず、佛蘭西國民の墮落腐敗は知識ある階級の腐敗墮落なり、彼等は道に自覺の外、外部よりは強制的にも、救済すること能はず。

國家的觀念なき分子を有する國民は禍なるかな、佛蘭西は國民の中堅たるべき中流以上の國民に於て國家的觀念無し、爲政者の苦心も下級國民の努力も、遂に徒勞に

佛蘭西國民の真相

佛蘭西兵の戦闘力

終らざるべからず。佛蘭西共和国は憐むべき國なり、佛蘭西國民は憫むべき國民なり。彼等は近き將來に於て第二の猶太人とならざるべからず、之れ彼等の自業自得なり、彼等自ら招ける罪の結果なり、彼等の免れ難き運命なり、而も自ら作れる運命なり。燃え易く熱し易き國民は御し易き國民なり、恐るゝに足らざる國民なり、征服するに容易なる國民なり、容易に燃へずして冷静なる理性の上に燃え、容易に熱せずして冷静なる理性の上に熱する國民は御し難き國民なり、恐るべき國民なり、征服するに困難なる國民なり。

佛蘭西の國民は感情的國民なり、燃へ易く熱し易き國民なり、彼等は冷静なる理性の上に燃へ且つ熱せずして、如何なる場合に於ても感情の上に燃へ且つ熱狂する國民なり。之れ佛蘭西國民の性質にして、朕が征服するに多大の困難と危険とを思はざる所以なり。

一七 佛蘭西兵の戦闘力

佛蘭西の軍人は腐敗せり、墮落せり、極度に腐敗し極度に墮落せり。殊に將校に甚しきを見る。佛蘭西の武力の恐るゝに足らざるはそれが爲めなり。脂粉を装ひて交際場裡に出入するを軍人の本分と思惟せるは佛蘭西の軍人なり、コルセットを纏装して舞踏會に出席し、婦人と相擁して嬉戯するを名譽とせるは佛蘭西の軍人なり。玩具に等しき細身の劍を好むは佛蘭西の軍人なり。美服を纏はざれば軍人の體面に關する如く思惟せるは佛蘭西の軍人なり。

白晝公然賣笑婦と提携して街路上に痴態を演ずるを軍紀の弛廢せる結果なりと思はざるは佛蘭西の軍人なり。戀に耽溺して國家の干城たるを忘るゝも、必ずしも軍人の本分を誤れるものと言ふべからずと思惟せるは佛蘭西の軍人なり。彼等は武術の修練よりも、婦人と相擁して舞踏の練習に熱中するを以て、爲すべき事の中の最も緊急にして亦最も必要なることと思惟せり。

佛蘭西兵の戦闘力

彼等は野外演習に於て命令と號令とを聞かんよりは、婦人の匂ひの漂へる音樂會場



に於て、軍人を墮落せしめ國民の神經を弛緩する頽廢の音を聽かんことを希望せり。

彼等は如何にせば敵を撃破し得べきやを研究すべき頭腦を以て、如何にせば婦人の愛を求め得べきやを思念せり。

彼等の精神と肉體は、亡國的音樂と、亡國の舞踏と、亡國の娛樂と、其他凡百亡國の求との爲めに腐敗せり、紊亂せり、糜爛し盡せり。

彼等は國家の危急存亡問題よりも、先づ自己の歡樂遂行上に於ける危急存亡を緊急問題とせり。より以上重要な意義あるものとせり。

彼等が軍服を纏へるは一國の運命を双肩に擔ふ重任ある軍人の制服にして、粗服猶萬金の衣裳に優れるを思ひて纏へるにあらずして、交際場裡に異裝を以て衆人の注意

を惹起せんが爲めに纏へり、軍服なるものが如何に美的にして男性的なるかを誇示せんが爲めに纏へり。

彼等が腰に吊したる劍は、敵に對する武器にあらず、國家を擁護せんが爲めの劍にあらず、敵を斬らんが爲めの劍にあらず、彼等の劍は一種の大人の玩具なり、一種の裝飾品なり。

彼等は可成的裝飾の綺羅美やかなるべく刀劍師に注文し、不實用的にして玩具式なるものに高價を拂ふて誇りとせり。彼等は可成的細身に華奢に無骨ならざるべく作製せしめ、其女性的優美なるを以て美的價値あるものと思惟して得意に吊せり。

彼等は男性美は如何なるものなるかを知らず、彼等は男性が女性美を崇拜憧憬して之を實行上に表現するは自己の心意が女性化するものたるを識らず、彼等は國家の擁

佛蘭西兵の戦闘力

護てふ大任務が如何に誇とすべき男性的のものなるかを知らず。彼等は男性美の極致が惨烈壯快なる戦争の如き場合に於て、遺憾なく發揮せらるゝものなることを知らず。彼等は其の腰に吊せる劔が國家を擁護する武器にして、頑丈無骨なるこそ却つて雄々しき男性美を表現せるものなることを知らず、而して其武器の頑丈の程度が益々頑丈なるに於てこそ、無骨の程度が愈々無骨なるに於てこそ、偉大なる緊張せる壯美を發揮し、國民をして信頼の念を高からしめ、敵をして恐怖心を増加せしむるに足るものなることを辨へず。彼等は軍人が國家の擁護てふ重任の下に、殺伐なる戦争に勝利を收得するを最大唯一の目的とする惨虐性を帯べるものたることを意識せず。彼等は軍人が軍人として感ずる美的對照と普通一般人が應ずる美的對照との間に大なる相違の横はれることを知らず。彼等は平時の訓練研究が戦時に際して如何の結果を見るに至るべきやを知らず。

而も眞面目に玩具式武器を以て敵と戦はんとする軍人あらば、其滑稽事たることに

失笑し得ざるもの有らんや。佛蘭西の軍隊殊に首腦たるべき將校は玩具式武器を以て敵に當らんとするものなり。

而も眞面目に、平時の訓練を怠慢するも一朝戦時の際には偉大なる戦闘力を發現し得べしと言ふものあらば、何人と雖も其常識なるに失笑を禁じ得ざるなるべし。佛蘭西の將校は平時に訓練を放棄して顧みず、戦時に於ては大戦闘力を發揮し得るものと思惟せるものなり。

其首腦たるべき將校にして既に斯くの如し、下士以下の兵卒に至りては、殆んど烏合の集なり、彼等は武器を有する普通人なり。朕が佛蘭西を征服するに大なる困難を思はず、多大の犠牲を拂ふことを要せずと確信するは是れが爲めなり。佛蘭西は黄金を山積して何等の警戒も施し居らざると一般なり、彼等は早晩多年苦心して蓄積せる黄金を一夜の中に奪取せられざるべからざるべからず。

佛蘭西兵軍の闘力

腐敗と墮落に狎れたる一般國民は、彼等の軍隊は強大なるものと思へり、世界何れの國と戦ふも決して敗北することなき精英なりと信ぜり、彼等は近き將來に於て此軍隊を以て見事に我獨逸帝國を撃破し、多年の國辱を雪ぎ得るものと信ぜり。彼等は遂に憐むべき亡國の民なり。朕は彼等を嗤ふと同時に憐まざるを得ず。あゝ憐むべき佛蘭西の民よ………

一八 ドンキホーテ式にあらず

朕を目して誇大妄想狂なりと評するものあり、或はドンキホーテ式皇帝なりと言ふものあり、或は將に滅せんとする燈火の一時閃光するが如き運命の下に活動せるに外ならずと評するものあり。

朕は辯解せざるべからず、極力朕が神より受けたる大使命と、朕が人格とを闡明

ドンキホーテ式にあらず

して誤解を解かざるべからず。

朕が歐洲の諸國を征服して全歐の盟主たらんとするは、朕が私的慾望より出でたる野心にあらず、神より命ぜられたる使命なり。朕が全歐征服の企圖は朕が欲する企圖にあらずして神が欲し給ふ企圖なり、朕が此企圖に據りて活動するは、朕が私心よりの活動にあらずして神が朕に命じて活動せしむるにより朕がすべての企圖は即ち神の企圖にして朕がすべての活動は即ち神の活動なり。

朕は私の野心より此大冒險を遂行せんとするものにあらずと雖も、神は宇宙の絶対者なり、其權力は宇宙に於ける絶対權力なり、朕は獨逸帝國の皇帝なり、朕が權力の絶対なるは獨逸一國內に於てのみなり。朕は神の命令には絶対に服従せざるを得ず、何となれば朕を獨逸の皇帝たらしめしは神にして、又皇帝の位より排除するを得るも神なればなり。朕が神の命令に服従すると否とは朕の運命の左右され、獨逸帝國の運

ドンキホーテ式にあらず

ドンキホーテ式にあらず

命決せらるればなり。朕は如何なる峻厳苛酷なること、雖も、其が神の命令なる場合は如何なる困難を排しても斷行せざるべからず。

朕をドンキホーテ式なりと評する者は、未だ朕が神の命令を受けたることを知らざる者なり。

朕を誇大妄想狂者なりと云ふものは、朕が祖父ウイルヘルム一世の人物を知らず、朕が其の孫にして資質の全部を遺傳せられたる完全なる大英雄たることを詳知せざるものなり。

朕が企圖して着々進捗せしめつゝある全歐征服は即ち朕を滅ぼし獨逸帝國を世界の地圖より抹消し去らんとするものなりと評するものは、未だ朕の人物を知らず、朕と國民との關係を識らず、朕の軍隊が如何に強大無比なるかを知らず、獨逸帝國が此企

圖を遂行する上に於て充分なる國力を有せることを看破するに盲目なるものなり。

神が朕に命じて全歐平定を企圖せしめ給へるは、多くの人類と畜類とを殺傷して、其滾々たる碧血と累々たる死屍とを眺めて愚まんとする惡戯的意味を含みたるものにあらず。歐洲の天地を大修繕場と化せしめ、歐洲諸國の兵力の強弱を試験せんが爲めの好奇的徒事にあらず。

歐洲に數個の國々が獨立割據し、各々軍備を擴張して利益と權利を、より多量に獲得せんと格執抗争するは、歐洲人類の永遠の平和を確保する所以にあらざるを看破し給ひ、朕をして其等の割據蠢動せる大小各國を征服せしめ、之を朕の直接統治下に置き、平等に權利を與へ、平等に利益を收得せしめ、永遠に平和状態を保持せしめ給はんが爲めなり。

ドンキホーテ式にあらず

朕をドンキホーテ式なりと評する妄言者よ、朕を誇大妄想なりと言ふ無禮者よ、朕が行動計書を朕親らを滅し獨逸帝國を亡すものと難する盲目の者よ、汝等は心靈を以て神に接せんことを期せよ、汝等は歐洲が現在如何なる状態にあるかを刮目せよ、汝等は紛騒と戦争の絶間なき社會に生存して常住心を戦慄の羈絆より脱すること能はざることの如何に不幸なるか、而して全然軍備を要せざる社會に生活して憶病なる汝等の心を戦かしむるの要なく、永遠の平和に恣まなる歡樂を追求し得ることの如何に幸福なるかを熱かに思考せよ。

今や歐洲の軍備は無限に擴張されつゝあり、慘虐なる戦争は間断なく行はれつゝあり、多くの人類と畜類とは慘酷なる状態に殺戮傷害されつゝあり。

朕をドンキホーテ的なりと云ふものよ、汝等は慘虐なる戦争を好ましきものと思惟せるや、汝等は汝等の同胞親子を戦争の犠牲に供し流血に漂はしめて愉快なる事と思

惟せるや。

朕を誇大妄想なりと評する者よ、汝等は歐洲の軍備が無限に擴張せられつゝあるを、幸福なることと思惟せるや、汝等は汝等の親子同胞を殺傷するを以て神意に應へるものなりと思惟せるや。

朕が全歐統一計書を評して、朕親ら失脚し、獨逸帝國の前途を暗黒ならしむるものと言ふ者よ、汝等は大小各國を獨立割據して抗争紛騒絶へざるを、神意の然らしむる所なりと思惟せるや。神意に逆行しつゝある此の状態が、何時の世にか統一せられざるべからざる運命にあるものと思ひ能はざるや。

一九 親愛なる獨逸國民よ

汝等獨逸國民よ、汝等は朕を信頼して朕が命を服膺し、全歐統一の大計書に勇往邁

親愛なる獨逸國民よ

進せざるべからず、汝は血を好み戦を好むこと日本國民の如くならざるは朕能く之を知れり、黄色の悪魔の如く惨虐を恣にするを目的とする程に野蠻ならざる優良なる國民たることは朕能く之を知れり。されど汝は一時的に血を好み國民とならざるべからず、戦を好む國民とならざるべからず、汝等に抵抗する者を殺戮傷害せざるべからず、何となれば、汝等が神意によりて下す朕が命令を遂行するには、其方法として是れを執るの外なければなり。

汝等は決して獨逸帝國が萬一にも世界地圖の表面より抹殺され了ることなきやを憂慮すること勿れ、朕は決して汝等を第二の猶太人たらしむることなかるべし、朕は汝等を光明平和の天地に導かんとするものなり、汝等は徹頭徹尾朕を信頼し、朕が命令を服膺して努力奮勵せよ、必ず汝等は幸福なる國民たるを得べし、全歐盟主國の大國民となりて、全歐を我物顔に闊歩するを得べし。汝等が朕を信頼せず、朕が命令を服膺せず、狐疑逡巡することあらんか、歐は獨逸皇帝として汝等に君臨し得ざるに至る

のみならず、或者の評言の如く、我獨逸帝國を世界地圖の表面より永遠に抹消し了らざるを得ざる悲しむべき結果を作るに至らん。

親愛なる我獨逸國民よ、汝等は能く朕が命に従ひて全歐を征服し、汝等の訓練指導によりて全歐の民を汝等の如く勇敢ならしめ、汝等の如く強大ならしめ、汝等の如く皇帝と國家とに勇順ならしめ、將に極東より起り來らんとする黄色の悪魔を防禦し歐洲の地を一步も踏まざらしむべく力めざるべからず、亞細亞大陸に跋扈せる黄色の悪魔は、現在汝等が思惟せる如く弱きものにあらず、彼等の一部には日本てふ國あるを知らざるべからず、歐洲各國をして三舍を避けしめたる強大なる露國が一譽にして粉碎されたる事を記憶せざるべからず。

黄色の悪魔は間斷なく歐洲を狙ひつゝあり、汝等の油斷を狙ひつゝあり、汝等が一寸油斷せば彼等は又一寸侵さんと狙ひつゝあり、彼等は汝等に大なる油斷あらんこと

親愛なる獨逸國民よ  
を希望しつゝあるを覺らざるべからず。

親愛なる我獨逸帝國の民よ、汝等は汝等の背後に大皇帝カイゼルあるを知らざるべからず。而して又大皇帝の背後には皇帝をして汝等を保護せしめつゝある神あることを知らざるべからず、神は我獨逸帝國のみ幸福を與へんと朕に誓言せることを信ぜざるべからず。汝等は全歐の盟主國民たるべく、神より特に選ばれて宣告されたる最も光輝ある國民たることを自覺自重せざるべからず。汝等は此自覺に基ける大決心大努力ありてこそ始めて朕が命を奉じて外征し、朕が命を辱しめざることを得べきなり。

親愛なる我獨逸帝國の民よ、汝等は、極東に割據して黄色の悪魔の手耳を執れる日本國民が、如何に精悍勇猛なるかを日露戦争によりて熟知し得たるなるべし、彼等が皇室と國家との爲めには生命を鴻毛の輕きに比して肉弾を飛ばし血煙を迷らすに躊躇せざる恐ろしき國民なることも熟知し得たるなるべし、汝等は日本國民の如く皇帝

と國家とに忠順ならざるべからず、皇帝と國家との爲めには自己の生命と財産とを抛擲して顧みざること日本國民の如くならざるべからず、而も汝等は日本國民以上ならざるべからず、何となれば、汝等は神より特に選ばれたる名譽ある國民なればなり。全歐統一の大事業を遂行すべき大責任大任務を双肩に擔へる國民なればなり、而して又黄色の悪魔を撃退する白人の中堅たらざるからべきればなり。

### II O 最後は只鐵拳あるのみ

我獨逸帝國の國威日に日に伸張するを猜視する國の政治家又は新聞紙は、獨逸が軍國主義を以て、其軍備を無限に擴張しつゝあるは、武力を以て他國を侵略せんと準備しつゝあるなりと、或は、獨逸カイゼルは大野心家なり、先帝ウイヘルム一世も大野心家にして、今日の獨逸帝國の基礎を建設せしが、現帝カイゼルに至りては先帝以上の大野心家なり彼れの全身はすべて野心を以て満されたり、彼れの眼は野心に輝けり、彼れの耳は野心の聲に聳てり、彼れの頭腦は侵略を畫策しつゝあり、彼れの手は

最後は只鐵拳あるのみ

最後は只競争あるのみ  
野心に戦けり、彼れの骨は野心の骨なり、彼れの全身に漲る血液は野心の血球を以て満されたる血液なり、而して彼れは上宰相より下一農夫に至るまで、野心家の宰相、野心家の農夫を作らんとしつゝあり、否な汝々として汲々として作りつゝあり、彼れは野心の権化なり、彼れは野心を生命とせるものなり、將來歐洲に大渦亂捲き起さるる時ありとせば、そは獨帝カイゼルの野心より起るものなり。歐洲列國は現時に於て獨逸の軍備擴張に制壓を加ふる手段を講ぜざれば、將來恐憂すべき結果を生ずるに至らんと言へり。

彼等は朕を大野心家なりと推想断定せり、彼等は獨逸の軍備擴張が、全く朕の侵略主義より出でたる侵略遂行の準備なりと思惟せり、彼等は朕を歐洲に大波瀾を捲き起さんとする平和の敵なりと推斷せり、是れ甚しき譏誣なり、甚しき中傷なり、看過すべからざる侮辱なり。

朕が軍備を擴張するは、帝國の利益を増進し、帝國の權利を保護し、帝國の國威を伸張せんが爲めなり。徒らに平和の天地を攪亂して、他國の領土を侵略し、暴威を逞ふせんとするが如き、背人道行爲を敢てするものならんや。彼等こそ歐洲の平和を攪亂するものなり、他國の隆興を猜疑嫉妬し、我帝國を譏誣中傷し、欲せざる戰を爲さしむべく教唆するものなり。

譏誣中傷することを止めて靜かに思考せよ、汝等は問題最後の解決は何によつて求めんとするか、個人的問題の紛争は國法の定めたる法律に據つて解決するを得べし。されど汝等は裁判によつて解決せず、動もすれば相互間に鐵拳を以て解決せんとするにあらずや、國家と國家との間に起る國際問題の紛争に至りては、相互間に認めたる國際法の定規に照して解決し得るもの少しとは言ふ能はざれど、一方が國際法の定規を全然無視する場合に於ては、汝等は何を以て解決し得べしと思惟するや。腕力！鐵拳！武力！之れ最後の解決法なるにあらずや、是れ以上有力にして且つ有効なる解決

最後は只競争あるのみ



最後は只競争あるのみ  
法は、現時の人類界には未だ発見し居られざるにあらずや。

武力と武力を以て勝敗を決する戦争は最後の裁判なり、最後の唯一解決法なり。人間が神と同一の程度に進化せざる限り、或は其の進化が絶対に不可能とせば人類が世界の表面より滅亡し終らざる限り、戦争の絶対に絶ること無きは明かなる事實なり。汝等は戦争の絶へざる世界の一角に國家を組織し、而も武力無き又は有れども微弱なる國家が、果して安全を保持し得べしと思惟せるや、永遠に平和を謳歌し得べしと信ずるや。

最後の解決は鐵拳にあり、最後の裁判は武力にあり、或は野蠻的なりと言のもふあるやも知るべからずと雖も、是れ以上の解決法なき以上は己むを得ざるなり、是れ以上有力なる裁判法なき以上は、爲さざらんとして爲さざるを得ざるなり。朕が親愛なる獨逸帝國の民よ、汝等は國際法の規定する條文の如きは、或る程度に至れば

無力となるものたるを知らざるべからず、而して最後の解決法として、最後の裁判として、最も有力にして又最も有効なるは強大なる武力に存することを忘るべからず。

### 二一 恐るべきか露西亞帝國

ナポレオン一世の雄圖は、其失脚の第一序幕を露國遠征に於て開けり。モスコウに於ける大敗は、後日コルシカの孤島に悲惨なる境遇と化すべき運命の端緒たりしは、争ふべからざる事實なり。露國はナポレオン一世の大遠征軍を粉碎して、俄かに歐洲の天地を睥睨するに至れり。彼れがナポレオン一世をモスコウに粉碎したるを以てナポレオン一世の雄圖を根底より轉覆せしめ悲惨なる運命に陥らしむる序幕を作りたるものとすれば、ナポレオン一世がモスコウに於ける大敗は又露國をして強大國たる實力を歐洲列國に認識せしむる機會を與へたるものと云ふべし。

彼れの領土は廣大なり、歐亞の二洲に跨りて殆んど其北半部を領せり。

恐るべきか露西亞帝國

恐るべき露西亞帝國  
彼れは事實に於て一億以上の人口を有せり。全人口がスラヴ民族のみにあらずとす  
るも、尠くともスラヴ民族の血液を多量に含有せる一億以上の人口を有せり。

彼れは百萬の常備軍を有する大陸軍國なりと稱せり。陸軍を以てせば、世界の何  
の國と戦ふも確實なる勝算ありと稱せり。ナポレオン一世が遠征を企圖して失敗した  
るは、露國が其強大世界に冠絶せる大陸軍國たるを知らざりしが爲めなりと稱せり。

歐洲の列國は彼れの自稱する誇張されし吹聴を眞なりと思惟せり。英國は大海軍國  
にして露國は大陸軍國なりてふ觀念は歐洲人の頭腦に等しく印象されし事實なるが故  
し、彼等自からも然思へり。

されど朕は、露國が自から稱する如く、果して大陸軍國なるやを疑問とせり。彼れ  
の陸軍力は彼れの自信せるが如く、世界の何の國と戦ふも確實に勝利を占め得るやを

疑問とせり。

果然、彼れの眞價は暴露されたり。彼れが世界一なりと自稱する大陸軍力の眞の力  
の程度は曝露されたり。

日露戦争を見よ、日露戦争の結果を觀よ。彼れは、倭小の日本何をか爲し得ん、日  
本が露國の實力を知らずして戦ふは、之れ恰かも蟻螂の斧を以て龍車に向ふが如けん  
のみ、只だ一撃の下に粉碎し呉れんと廣言せしにも拘はらず、彼れは連戦して連敗せ  
しにあらずや、蟻螂の小は龍車の大を撃破粉碎せしにあらずや。

彼れの海軍を見よ、彼れが日本海軍を織滅せんと稱せし海軍を觀よ、東洋艦隊全滅  
し、バルチック艦隊亦全滅せしにあらずや。

恐るべき露西亞帝國  
世界に匹敵なき大陸軍國なりと稱せし彼れの大陸軍力なるもの斯の如し。日本海軍を粉碎せんと稱せし彼れの海軍力なるもの亦斯くの如し。是を以て見るも、彼れが曩に稱せし世界に匹敵なき大陸軍國なる語は、全然事實と相違せるものなりしを知るべし。領土の廣大、人口の多數、常備軍の多數等を看板として、歐洲列國を威嚇したるに外ならざりしを知るべし。

朕が疑問は全の中せり。朕が彼れに對する評價は全然の中せり。彼れの大陸軍と稱するは、常備兵數の多きを以て然稱するにありて、戦術と訓練と武器の精銳とが兵數に正比例して伴へるを以て稱するものにてはあらざりしなり。

數に於ても戦闘力に於ても、彼れの陸軍は佛蘭西に勝れり、英國に勝れり、伊太利に優り、埃洪に優り、土耳其に優り、西班牙に優り、葡萄牙に優り、其他歐洲に於る列國に優れり、されど彼れは歐洲の中央に我獨逸帝國あるを忘れたり、世界無比の強大なる

陸軍國獨逸帝國あるを忘れたり。

大陸軍なりと稱する露國の陸軍は彼れの二個軍團に對して歐の一個軍團を以て充分勝算ありと思惟せし日本に敗れたり、彼れは我獨逸帝國に比すれば二等國たる以上の實力なき日本に粉碎せられたり。露國の陸軍は歐洲の列國が恐れたりしが如く強大なるものにあらず。無論我獨逸帝國を除ける他の諸國より見れば確かに強大なる陸軍たるには相違なければ——。

彼れの海軍は佛蘭西に比して稍々優勢なるべしと雖も、亦殆んど齒牙に掛るに足らず。日本艦隊に粉碎されたる醜態陋狀より見れば、彼れの五萬噸に對して朕の一萬噸を以て優に全滅せしむることを得べし。

歐洲列國が腫物に觸るが如き態度を以て接しつゝありし露國は、遂に恐るゝに足ら

恐るべき露西亞帝國

英國海軍の實力  
ず、憂ふるを要せず、彼れを征服するには、佛蘭西に比して多少の手應へあるべしと雖も、強大なる朕が陸海軍を以てせば、また甚しき困難にあらず。

一三一 英國海軍の實力

朕が親愛なる獨逸帝國の民よ、汝等は世界に比肩すべきものなき大陸軍國として歐洲諸國を恐れしめし露國が、朕が陸軍以下數等なる眞價の曝露によりて、恐るゝに足らざるを知れり。

實にや露國は、猛鷲にあらずして大鳥なりき、大熊にあらずして大象なりき、汝等は全歐征服の大企圖を遂行せんとするに當りて、陸上に於ては最早や恐るべき何者も無し。憂ふべき何者もある無し。汝等は連戦連勝するを得べし、疾風の曠野を渡るが如くなるべし。陸上は既に我獨逸帝國の有に歸せるものと思惟して可なり。

されど汝等は未だ他に一つ知らざるべからざるものあり。即ち、大海軍國なりと稱

せらるゝ英吉利帝國なり。

世界唯一の大陸軍國なりと露國が自稱せしが如く、彼れも亦世界唯一の大海軍國なりと稱せり。英國の今日在るは偏へに大海軍を作りしが爲なり、將來に於ても英國は大海軍を後楯として雄飛せざるべからずと彼は言へり。

朕が親愛なる獨逸帝國の民よ、汝等は大陸軍國なりと言はれし露國に對したると同一の意味を含める鋭き眼を刮いて觀察せざるべからず。

露國が自ら吹聴したる大陸軍なるものが、如何に驚くべき滑稽なる大陸軍にして、所詮鬼面人を威すに類したるものに過ぎざりし事實は、汝等が既に能く之れを知れり。世界唯一の大海軍國なりと自からも吹聴し又列國も信じつゝある英國大海軍の眞相は露國の大陸軍の眞相と相類似するものにてはあらざるなきやを、汝等は疑問とせずや。

英國海軍の實力  
訓練と武器の精銳とを度外したる龐大なる兵數を以て大陸軍なりと稱する露國陸軍が、眞に大陸軍と謂ひ得べくんば、何等の訓練をも施さざる民衆に軍服を纏はしめたる團體をも大陸軍と謂はざるべからず。世に一人として斯くの如き烏合の衆を精銳なる大陸軍なりと信するものあらんや。之れを信する者ありとせば、そは白痴か狂者の類なるべく、世界第一位なりと誇稱する英國大海軍なるもの、眞相も、露國の大陸軍の眞相と相似たる好一對のものにてはあらざるか？……  
露國は既に其の大陸軍の眞相を自から曝露したり、英國も亦自から其の大海軍の眞相を曝露せざるべからず。

朕が親愛なる獨逸帝國の民よ、汝等は大陸軍なりと稱する露國を恐憂せざるが如く、大海軍なりと稱する英國に對し、決して恐懼の念を抱くこと勿れ。何となれば彼れは決して、其の自から吹聴するが如く又列國が思惟せるが如き大海軍力を擁する大敵にあらざればなり。

彼れは現代の空氣の冷たさに無感覺なり。彼れはネルソン時代の遠き昔を夢みつゝあり。彼れはネルソン時代の實質に近代的表皮を被らせ而も大海軍を有すと稱せり。昔日の夢のみを繰返して現代を思はず、將來を計らざるものは遂に亡ぼさるゝ運命線上に立てるものなり。亡びて而して後に、昔日の夢に耽りし事の愚なりしを覺らんのみ。

大なれど實質なきものは小にして實質あるものに如かず。英國海軍は大なれど訓練を缺けり、武器の精銳を缺けり、即ち、大なれど實質なき海軍なり。

朕が親愛なる獨逸帝國の民よ、大にして實質なき露國が、小にして實質ある日本に敗れたる事實を參考として、慧敏なる觀察眼を英國の大海軍に向つて注がざるべからず。

彼れは艦艇を多數有し又其總計噸數の大なる點に於ては、確かに世界に於て第一位たるを否認すべからずと雖も、只單に艦艇の數の多きのみを以てしては、又噸數合計量の大的みを以てしては、海軍力の強大を證明するに足らざるなり。

若し、艦艇數の多寡を以て、合計噸數の大小を以て其海軍力の強弱を測定するパロメートルなりとすれば、其は實戰に於ては此限りならずて冠辭を附したる斷案ならざるべからず。實戰に無力なる海軍は、寧ろ全然之を有せざるの經濟的なるに如かず。

朕が親愛なる我獨逸帝國の民よ、汝等は決して英國の聲明に驚かされること勿れ、彼れの多數の艦艇に恐怖の念を抱くこと勿れ、合計噸數の大なるに怯心を惹起すること勿れ、列國が盲信せるが如く汝等も彼れの實力を過大視して盲信すること勿れ。彼れは多數の艦艇を有すれども、恐るべき戰鬪力を有するものにあらず。多數の艦艇には多數の砲煩を有すれども、之れ只だ多數の砲煩を有するのみにして、我獨逸海軍に

大損害を蒙らしむる力あるものにあらず、多數の艦艇には多數の將校兵卒乗組めりと雖も、我獨逸海軍に於ける將卒の如く、勇敢ならず、機械の操縦に巧妙ならず、神算鬼籌の靈輿を究め居らず。彼れ等は武装せる艦艇に在つて、敵に無効力なる砲彈を送り得ると云ふに過ぎず、艦艇を前後左右に動かし得ると云ふに過ぎず。

ネルソン時代を夢みつゝ大海軍國なりと稱する英國海軍に對しては、我獨逸海軍は彼れの一百萬噸に對して僅々四五萬噸を以て充分の勝利を豫想し得るなり。

英國海軍彼れ何者ぞ、彼れは只だ艦艇の多數を以て強大を語りつゝあるものにあらずや。彼れは只だ多數の艦艇に多數の砲煩と多數の乗組員とを以て強大を證明しつゝあるものにあらずや。朕が親愛なる我獨逸帝國の民よ、汝等は決して英國を恐るべきものと思惟すること勿れ、彼れが自から稱する海軍の強大は、昔て露國が吹聴したりし處のものと殆んど同一真相のものに過ぎざることを信じて疑ふ勿れ。我獨逸帝國陸

英國海軍の實力

英國海軍の實力  
軍の向ふ所、決して勝利を得ずと云ふことなし。征服せらざる國あることなし。朕は神の使命を以て諸國を征服せんとするものなればなり。神は特に選みて我獨逸國民に全歐征服の大使命を與へ給ひたればなり。

朕が親愛なる獨逸帝國の民よ、汝等は忘るゝこと勿れ、朕は神の代理者なるぞ、神の化身なるぞ、而して朕が臣たる汝等は神より特選されたる絶大なる名譽を頭上に戴ける國民なるぞ、換言すれば、汝等は神の使徒なり。汝等は朕と共に自重せざるべからず。

汝等が是れを自覺すると否とは、我獨逸帝國の志氣に大關係を有す。汝等が是れを自覺して勇あれば、朕が大計畫は大成し、朕は全歐に盟主たるを得べく、汝等は全歐中に於て最も強大にして尊敬長服さるべき大國民たるを得べし。  
若し汝等にして是を自覺せずして怯ならんか、朕が大計畫は大顛覆を來し、朕は獨

逸皇帝として汝等に再び君臨し得る能はざるに至るのみならず、汝等は第二の猶太人となり、光輝ある我獨逸帝國は永遠に世界の表面より滅亡し、世界地圖上に獨逸帝國を見る能はざるに至るべし。

朕が親愛なる我獨逸帝國の民よ、汝等が、朕と我獨逸帝國の爲めには、彼の黄色の悪魔中の最猛者たる日本人の如く、勇猛にして忠順なるを信じて疑はずと雖も、朕が大計畫たる全歐征服の偉業は、我獨逸帝國の永遠の安全は絶対に憂慮顧みする必要なものたるを斷言し得ざる大計畫たるを銘心せざるべからず。

汝等が朕の言を信せず、朕を信頼せず、朕と國家とに忠順勇敢ならざれば、朕滅び國家亡ぶと共に汝等も運命を共にせざるべからず。

固より朕が大計畫は朕が私の野心より企てたるものにあらずして、神命によりて企圖せるものなれば、神は決して我獨逸帝國に禍を下すことなきを信す。されど、

英國海軍の實力

朕はナポレオン一世  
汝等にして忠順ならず怯懦ならんか、神は我獨逸帝國は此重任の遂行に堪へざるものと見て、曩に賦與したる特權を撤回すべし。而して神は禍を下すことなからんも、庇護の特典を與ふることなきに至るべし。

汝等國民よ、汝等は、大計畫實施中途に於て神より特權を撤回され、特典を剝奪されたる場合、汝等は猶ほ獨逸國民として安全たり得と信ずるや、我獨逸帝國が分割を免れ得べしと信ずるや、朕が依然として獨逸皇帝たる地位を保持して汝等に君臨し得べしと思惟するや。

### 一三三 朕とナポレオン一世

朕を猜視する者は曰く、カイゼルは野心の權化にして、第二のナポレオン一世たらんとするものなり。ナポレオン一世が全歐を征服して其盟主たらんと企圖せしが如く、彼れカイゼルも亦、全歐を征服して、其の盟主たらんと思へるものなり。早晚彼れの

爲めに歐洲が大渦亂の中に投ぜらるゝは明かにして、又彼れカイゼルは、ナポレオン一世が自己を過信して失敗せし如く、自己を過信して失脚するに至らん。猶ほ、カイゼルの野心に原因する大渦亂が歐洲の天地に於て惹起さるゝ場合は、カイゼルの運命はナポレオン一世の運命の轍を踏むべく、而して時代の相違てふ關係より、終局は短期間に決せらるべし——と。是れ甚だしき誤解たるを免かれず、之れ甚だしき侮辱を加ふるものなり。

ナポレオン一世が大野心家なりしは事實なり。されど朕はナポレオン一世の如き大野心を包藏せず。又、包藏せんとも思念せず。

ナポレオン一世が、燃ゆるが如き大野心より、全歐を征服せんとせしは事實なり、而して其の盟主となりて牛耳を執らんと欲せしも亦歴史が語る如く事實たるに相違なし。



朕とナポレオン一世  
されど朕はナポレオン一世の如く、私の野心より全歐を征服して盟主たらんとの希望を有せず、又有せんとも思念せざるなり。只だ朕は神の命を奉じて全歐を征服せんと欲するのみ、全歐を統一して永遠不動の基礎に於て永遠不動の平和を確立せんが爲めに、全歐統一を計畫せるのみ。

彼れナポレオン一世は私の野心より全歐統一を企圖したるにて神の使命に據りたるものにてはあらざりしなり。彼れが半途にして失脚するに至りたるは、其原因全た是れにあるなり。彼れにして眞に神の使命の下に決行したらんには、多少の挫折は免かれずとするも、遂に大成せしならんも、神意に背馳せざるまでも神意に據らざる大計畫を企て、中途に失敗したるは當然の結果なり、必然の経過なり。決して彼れの努力が不足なりしが故にあらず、決して彼れの作戦計畫が拙劣なりしが爲にあらず。彼れは計畫を立てたる最初より既に此の運命を有したりしを知らざるべからず。

ナポレオン一世が不世出の大英雄たりしことには、歴史家の意見一致せるが如し。されど、朕は彼れが不世出の大英雄たることを信ずるを得ず。

何となれば、彼れが眇たる一士官より身を起して、佛蘭西皇帝の位に即きたるは、大英雄たるを認むべきが如しと雖も、彼れは神を恐れざりき、眇くとも彼れは神意に據りて計畫を爲さざりき。神を信せず、神を恐れず、神意によりて行動せられざるものは、亦神の庇護を受くること能はず、神より特權特典を賦與せらるゝこと能はず。大英雄は神に靈通するに於て大英雄たるの資格を生ず、神に靈通して特權と特典とを賦與せらるゝに於て始めて大英雄たるを得るなり。然るに彼れは神と靈通せず、神より特權特典を賦與せられざる英雄たりし故なり。

朕を大野心家としてナポレオン一世と同一視せんとする者よ、汝等はナポレオン一世が眞の大英雄にあらずして朕が眞の大英雄たる區別を識らざるべからず。彼れは神意に據らずして行動し、朕は神意に據りて行動するものたる區別を知らざるべからず

朕とナポレオン一世

朕が全歐征服の企圖は即ち私の野心より出でたるものにして、朕が全歐征服の大計書は徹底も野心を挟まざる神の命令によれるものなることの相違を識別せざるべからず。是等を明かに識別して後朕に對する批評を爲さざるべからず。

又、朕を評する者は、彼れカイゼルは第二のナポレオン一世を以て自任せるだけありて、其すべての行動亦ナポレオン一世に酷似せりと言へり。されど彼等は未だナポレオン一世を知らず又朕を識らざるものなり、朕がなす處のすべての行動がナポレオン一世が爲せしすべての行動に酷似する處ありとせば、是は朕の行動がナポレオン一世に酷似せるにあらずして、ナポレオン一世の行動が朕の行動に酷似せるなり。朕の行動豈に僞英雄ナポレオンに酷似せるものならんや。

彼れナポレオン一世は、戦の勝敗は最後の五分間に因て較ると謂へり、されど朕は戦の勝敗は最初の五分間と最後の五分間とに於て較ると謂はんと欲す。彼れは未だ

戦の秘訣を解し居らざりしが如し。

### 二四 決して躊躇するの要無し

朕が親愛なる我獨逸帝國の民よ！

朕は勁敵として遇し來りし東方の露西亞帝國が、案外にも恐憂するに足らざるを確かめ得たり。彼が自から吹聴せし強大なる大陸軍は、剝製の鷲に等しきものなるを確かめ得たり。尨大なる軍隊は烏合の集團と相距ること遠からざるものなるを確かめ得たり。

大海軍を擁して世界を睥睨し來りし英國の真相も知るを得たり、彼れが誇れる大海軍とは、所詮艦艇の數を多く有せるの謂なりしを知れり。彼れの稱する大海軍力とは所詮艦艇噸數の合計の大なるにありしことを知れり。彼れも亦決して恐憂するの要なきを知れり。支那が覺醒して提携せざる限り、極東に割據せる日本も亦、決して憂ふるに足らざるを知れり。一聲の下に粉碎し得る確信を得たり。朕は何時たりとも彼等

決して躊躇するの要無し

決して躊躇するの要無し  
と開戦して確實に勝利を制し得ることを固く信ず。

朕が親愛なる我獨逸帝國の民よ！

朕は是等の諸國と開戦することあるべし、機會の乘ずべきにあらば、戦を宣して神より授けられたる宿志を果さんと欲す。汝等は一擧にして彼等を粉碎し盡せ、決して躊躇するの要なし。

朕が親愛なる我獨逸帝國の民よ！

朕が、世界の何の國に戦を宣するも、汝等は朕が默許する範圍内に於ては、如何なる行動を爲すも可なり。汝等が敵國を征服するに就ての手段方法なりせば、如何なる行爲を以てするも、朕は決して叱責することなかるべし。譴責することなかるべし。刑罰に處することなかるべし。何となれば戦争なればなり、如何なる法規も道徳も戦争の前には全然權威と執行力を失ふものなればなり。汝等は決して躊躇するの要なし

朕が親愛なる我獨逸帝國の民よ！  
汝等は文明國中に於ける最も野蠻臭味を有する國民なりとの評あり。汝等は此の盲目にして無禮なる批評に對して、決して辯解せんとすること勿れ、眞面目なる反駁を試みんとすること勿れ。

汝等は神の使命を有する獨逸帝國の民なり、朕が股肱なり、文明國中に於ける最も文明的國民たるも可なり、文明國中に於ける最も野蠻的國民たるも亦可なり。汝等は朕と共に使命遂行に熱心なれば可なり。朕が命ずる儘に汝等一致團結して忠順なれば可なり。汝等は只だ一途に武力の養成に努力すれば可なり。汝等は只だ將來全歐の盟主國たるべき獨逸帝國の光輝ある國民たるを忘れざれば可なり。彼等が如何なる侮辱を加ふるも、如何なる譴誣中傷を敢てするとも些しも顧るの要なし。汝等に對する侮辱も、譴誣中傷も、汝等の代表的なる朕が重臣をして之を解決せしむ、決して汝等決して躊躇するの要なし

獨米攻守同盟  
の名譽と權利とを毀損するが如き方法を以て解決せざるべきを保證す。

汝等は彼等が野蠻臭味なりと評する特色を最も能くより以上に發揮せんことに努めよ、何となれば、开は汝等の特長特色にして、朕が宿志を達成するに就て最も必要且つ最も有力なるものなればなり。朕は汝等が益々蠻的特長を發揮せんことを希望して已まざるものなり。

二五 米獨攻守同盟

朕は全歐征服大計畫を達成するに就て、米國と攻守同盟を締結するの必要を認む。我獨逸帝國が強大に赴き國威益々振興するを喜ばざるは、必ずしも佛蘭西のみならず、必ずしも英吉利のみならず、必ずしも露西亞のみならず、必ずしも日本のみにあらず、米國と雖も亦大に歓迎すること無かるべきは明かなり。

されど彼れは地理上の關係より、獨逸帝國隆昌の影響を受けること、歐洲の列國に比すれば甚だ尠なりとは言ふべからざるも、また決して同等或はより以上に大なりとは言ふべからず。

彼れ或は歐洲列國と同様に甚大なる影響を蒙るべしと言ふやも知れざれど、朕が全歐を征服し全歐を朕の統治下に置き、平和を克復したる曉に於て、彼れは却つて其の自國を利する所以なりしを覺知するに至るべきや必せり。

彼れは、日本が東洋に割據して其の覇權を掌握し居るが故に、其の極東政策の遂行に大なる困難と危険とを感じつゝあり。

彼れは日本を恐れつゝあり、尠くとも日本の將來に就ては尠からざる杞憂の念を抱けるは蔽ふべからざる事實なり。

彼れが日本移民に對して非常なる嫌惡の情を有せるを見よ、日本人排斥運動の猖獗

獨米攻守同盟

獨米攻守同盟  
なるを見よ、日本人學齡兒童問題に於ける彼等の態度を見よ、主張を見よ、日本人土地所有禁止法案問題に見よ。之れ悉く日本の將來に恐憂を抱ける結果たる事實を表明せるのみなり。

朕は彼れと同盟を締結するの基礎として、彼れを教唆し、彼れを扶けて日本と開戦せしむべし。彼れは其の財力に於ては日本を凌駕せること逾かなるも、其兵力に於ては決して勝利を得べしとは思惟し難し、彼れが日本に對して抱ける恐憂は即ち是なり。彼れが日本と開戦すべき問題と機會とは、幾度か去來したるにも拘らず、敢て開戦せんと爲さざりしは、其の兵力に於て彼れに勝算無きが爲めなり。殊に日露戦争後彼れの恐日熱は一層昇騰したるが如し。

られざる限りは、彼れの恐日熱は殆んど永久に冷却することなかるべし。彼等も亦盲目なる國民なるかな、憚むべき國民なるかな。

然れども彼れは、強大なる我獨逸帝國が後援となりて、陸海軍の一部を貸與せば、欣然勇躍して開戦するや必せり。彼れが朕を德として日本に戦を宣するや必せり。

日本は其外交に於ては拙劣迂遠なるを免れずと難も、戦に於ては甚だ慧敏なり、之れ全く日本人が好戦の特性より來れるものなりと雖も、彼れが戦に於ける行動は敏捷にして迅速なり、神出鬼没的行動なり、眞に端倪すべからざるものあり。

されば日本は米國と戦ふ場合、其作戦は、遠征の冒險を執らずして沿岸を警備して専ら防禦の措置を取るべし、假令遠征を企つるも比立資占領以上の擧に出づること無からん。

第二計畫は日本分割  
米國全海軍に加ふるに精銳無比なる我獨逸海軍の一部を以てすれば、日本海軍を全滅して征服の目的を達すること、蓋し朝食前の事ならんのみ。

日本を粉碎して米國の極東政策を保證し障碍なく進捗せしむるに至れば、朕が提出する攻守同盟締結案に對し、彼れは快然として諾し、欣然として應ずべし。斯くて朕が全歐征服の雄圖は、漸次進捗するに至るべし。

二六 第二計畫は日本分割

朕が米國と同盟を締結することは、朕が全歐征服戦開始後に於ける軍需品の補充及び歐洲列國を牽制せしむるに就て必要なりと雖も、若し、米國にして我教唆使噓に應ぜざる場合、朕には第二の計畫あり、即ち露西亞を籠絡して使噓し、日本に對し復讐戦を起さしむることは是なり。

日露戦争に於ける露國の敗北は露國に助けて忘却すること能はざる耻辱なり、これが爲に國威は内外に失墜し、歐洲列國をして露國の決して恐るゝに足らざるを思はしむるに至れり。

彼れが日本との戦に敗れたる結果は、數十萬の生靈を失ひたるのみにあらず、薩哈噠島の南半部を割讓したるのみにあらず、滿洲鐵道と旅順要塞と大連とを奪はれて、極東政策を根柢より破壊されたるのみにあらず、其の唯一の看板たる大陸軍の真相暴露せられ、世界各国より蔑視せらるゝに至りたる大損害は、決して彼れの忘るゝこと能はざる大損害にして又大耻辱なり。彼れが日本に對する遺恨は骨髓に徹せり。

噫小なる日本に敗れたる露西亞國民！。彼等の眼は血走れり。彼等の頭髮は逆立ちり。彼等の顔面は蒼白となれり。彼等の手は戦けり。彼等の肉は躍れり。彼等の全身の血管は膨脹せり、而して之れ悉く日本に對する憤怒の表情なり。

第二計畫は日本分割

第二計畫は日本分割  
彼等が憤怒に血走れる眼は常に極東の天を睨みつゝあり。彼等の憤激に戦ける手は  
間断なく剣を磨きつゝあり。朕が利用すべきは即ち是なり。

彼等は十年後に於て必ず國力を回復し得べし、朕は彼れを教唆使嗾して開戦の口實  
を作らしめ、復讐戦を爲さしむべし。

されど露國は其の復讐戦に單獨にて成功し得るや否やは疑問なり。何となれば、露  
國が十年間國力の充實に苦心せる間に、彼れ日本も亦一層の強大なる兵力を養成すべ  
ければなり。日本は戦勝國なり、露國は戦敗國なり、露國が失ひたる所を充實する間  
に、日本はより以上に擴張充實することを得、其間の差は決して小差なりと言ふべ  
からざればなり。

露國が十年練磨苦心の甲斐なく、再び敗れんとするに至らば、朕は強大なる朕が陸  
海軍を以て彼れを援助すべし。

日本陸軍如何に勇猛なりとも、強大無比なる我獨逸帝國陸軍に對しては、龍軍に向  
ふ蟻螂の斧たらんのみ。

日本海軍如何に精銳なりとも、雄大なる我獨逸帝國海軍に對しては、大鷲に向ふ燕  
雀たらんのみ。

朕が陸海軍のみを以てするも甚だ容易なる業たるに、猶又露國陸海軍を加ふ、瞬間  
に日本軍を粉碎し、日本の領土を蹂躪し得べし。

斯くて日本を蹂躪し終らば、日本を折半して北半部を露國に與へ、南半部を朕が版  
圖に編入すべし。馬鹿の可キカサリヨリ、世はカワニニ自滅  
此の計畫によりて日本を分割し、日本人をして第二猶太人たらしめば、朕及び露國  
は、何等の障碍をも受けずして極東政策を進め得べし。又黃禍を根絶し得べし、假令  
根絶し得ざるまでも半世紀間の安心を得べし。

### 二七 日獨米三角同盟を作らん

露國もとより、日本に對する復讐の念切なるものありと雖も、日本が益々武力を強大にしつゝあるは事實にして、露國が思惟せるが如く、戦勝に亂醉し、油断し居らざるなり。

露國が日本に對する復讐戰に於て、再び前轍を繰返して失敗せんか、露國の國威は極度に失墜し、再び起つ能はざるに至るべきは炳乎として明かなり。

彼れが日本に對して復讐戰なさんとするには、其の準備として、日本の一に對する一半乃至二の比例を以て軍備を擴張せざるべからず。之れ果して彼れの能し得る處なるや否や疑問なり。假令一步を譲りて彼れが此の大擴張を爲し得たりとするも、其實際に於ける戦闘力が、日本を過へに凌駕せるものを作り得るや否やは、俄かに判断を下し得ざるものあるべし。

彼等は日本國民の性質を了解せり、日本人の特質特長を知悉せり。日本人が血を好むこと彼等が酒を好む如くなる國民たることも、日本人が戰を好むこと猶ほ彼等が博を好む如く好む國民なることも、皇室と國家との爲めには、貴重なる生命を鴻毛の如く輕んじ、如何なる犠牲を拂ふも辭せず悔ひざる國民たることも、假令最後の一人となるとも勝利を得ざれば退却せざる執着心と極度の忍耐と恐るべき癡猛心とを有する國民たることも、他國人以上に能く知れり。

彼等が分秒の間と雖も日本に對する復讐を忘れざると共に、又分秒の間と雖も忘れざるものは、此の日本人の特質特長なり。彼等が大事を取りて容易に起たざるは、全くこれあるが爲めなりと云ふは決して誤れる觀察にあらざるを信ず。

或は彼れは、朕が教唆するも日本と戰はざるやも知れず、或は却つて其が爲めに日本に親善し、日本と提携するに至るやも知れず。何となれば、彼れは朕の使嗾教唆に



日米獨三角同盟を作らん  
よりて日本と戦ふも、朕が力を借りたる場合、而して日本を征服したる場合、朕が過大なる要求を提出するに至らんことを豫想すればなり。其の結果、東洋に於ける我獨逸帝國の版圖は擴大され、彼れが宿志たる極東經營に大障礙を來すことあるべきを豫想すればなり。而して又遂に獨逸と戦はざるべからざるに至らんと豫想すればなり。獨逸と開戦して敗衄したる場合は、東洋に於けるすべてのものを奪はれ、日本と戦はざる以前に數倍したる悲運窮境に沈淪せざるを得ざるに至るべきを豫想すればなり。

若し露國が日本と戦ふを欲せざる場合は如何？

朕には又第三の策あり！

即ち、日本を征服することの念を全然拋棄し、日米間に蟠まれる諸種の問題を解決し、日米間を親好ならしめ、日獨米三角同盟を組織せんとすることは是なり。朕は此三角同盟は、朕が提唱せずとも、世界の趨勢は、遂に此の同盟の締結を餘儀なくせしむるに至るべきを信じて疑はざるなり。

二八 世界を三大分割せん

日獨米三角同盟は、獨米兩國は日本が亞細亞洲の全部及び南洋の一部を其の領土とすることに同意し、日米兩國は獨逸帝國が全歐及び亞弗利加洲の全部及びオーストラリア洲の一部を領有することに同意し、日獨兩國は米國が南北兩亞米利加洲の全部及びオーストラリア洲の一部を領有することに同意し、其の權利と利益とを相互に確證して組織すべし。

日獨米三角同盟を組織して、世界を三大に分割するは、朕が宿論たる黃禍論と相反せるものにあらずや、日本をして亞細亞洲の全部及び南洋の一部を領有せしむるは、黄色惡魔の歐洲殺倒を助成し催進するものにあらずや、斯くては朕が全歐征服の偉業成功するも水泡に歸するに至らんと杞憂する者あるべしと雖も、もと之れ朕が全歐統一の大雄圖を完成する上に於ける一時的方便のみ、一時的手段のみ、また決して永

世界を三大分割せん

日本は黄禍の原菌  
遠の策にあらず。また決して朕が年来の宿論たる黄禍論を抛棄するものにあらず。また決して日本をして永久に亞細亞の大富源を占領せしめ、其の跋扈を默許せんとするものにあらず。

二九 日本は黄禍の原菌

日本は朕をして黄禍論を提唱絶叫せしむるに至りたる原因なり。  
彼れは惨虐なる黄禍を歐洲に蒙らしめんとする案内者なり。  
彼れは、黄色の悪魔をして、歐洲を蹂躪せしむる教唆者なり。  
彼れは、黄色の悪魔をして、歐洲の文明を根抵より覆滅せしめんとする、恐るべき破壊主義者なり。  
彼れは、黄色の悪魔をして、歐洲の白人に大虐殺を行はしめんとする使喚者なり  
彼れは、黄色の悪魔をして、歐洲のすべての聖物を汚辱破壊せしめ、すべての寶物を掠奪せしめんとする野蠻人なり。

彼れは、黄色の悪魔をして、あらゆる暴逆、あらゆる惨酷、如何なる野蠻人も敢し得ざる程のあらゆる非人間行為をなさしめんとする悪魔以上の大悪魔なり。  
彼れは、黄禍の起る最大最強の原菌なり。  
彼れは討たざるべからず、滅せざるべからず、亡ぼさざるべからず、如何なる手段を講じても、如何なる犠牲を拂ふとも、斷じて存在を許すべからず。

三〇 斷じて存在を許さず

されど朕は、米國が日本に對して宣戦するを欲せざる以上は、また露國が復讐戦を斷行し得るの勇氣なく、却つて朕を猜疑嫉視し、日本と提携せんとする傾向を看取する以上は、朕が全歐を征復する策略上、暫時黄禍に目を瞑りて、日本と同盟提携せざるべからず。

而して、日本をして直接に又間接に、歐が全歐統一の大事業を援助せしむれば、朕が全歐征服の作戰計畫上、最も安全にしてまた最も有利有効なるを認む。

斷じて存在を許さず

また手段を擇ばず  
朕にして一たび全歐統一の目的を完成せんか、斷じて黃禍の原菌たる日本の存在を許さざるなり。斷じて彼れを討滅し盡さずんば已まざるなり。嘗てビスマルクは、戦争はすべての條約を破ると喝破せり、朕は彼れの言が眞理なるを認む。日本に對する朕が最後の計畫はこれなり。

三三二 また手段を擇ばず

英雄は目的の爲めに手段を擇ばず。手段を擇ぶ英雄は眞の英雄にあらず、眞の英雄たる資格無し。

親愛なる朕が國民は、朕が眞の大英雄たることを認む、朕親からも亦深く固く大英雄たるを信ず。

朕は、目的の爲めには決して手段を擇ばず。

噫々、愚なるかなナポレオン三世！  
噫々、憫むべき哉ナポレオン三世！  
世の彼れを研究せる者は、彼れを佛蘭西歴代の皇帝中最も傑出せる皇帝の一人なりとせり。之れ疑問なり、甚だ疑問なり、果して傑出せる人物なりしや否やは大いに研究し大いに熟考すべき問題なり。

三三三 愚なるナポレオン三世

彼れを研究し其の總てを看破し得たりと稱する者は曰く、彼れは一世の大英雄ナポレオン一世を伯父とする血統の人物なり、彼れの英雄的素質は、彼れの伯父ナポレオン一世の血液の幾分を享けたるにあり。彼れは確かに英雄的人物なり、尠くとも彼れは大成功を齎ら得ざりし不遇の英雄的人物たるを失はずと。之れ疑問なり、之れ甚だ疑問なり、大いに研究を要し大いに熟考を要すべき問題なり。

愚なるナポレオン三世

彼は傑出せる人物にもあらず、英雄的人物にもあらず、彼は愚なる人物なり、一面に於ては賢にして又一面に於てはより以上愚にして憫れむべき人物なり。

彼は自己を知るの明なかりき、自己が如何なることを爲し得るか、如何なる事に堪へ得るかを知らざりき。之れ彼の愚にして憫れむべきところなり。

彼はナポレオン一世が血統に於て伯父に常れるを唯一の名譽とし、唯一の誇とし唯一の光輝とし、己を裝飾して偉大ならしむる大なる特典なりと思惟せり。之れ彼れが愚にして憫れむべきところなり。

彼は英雄にあらずして英雄なりと信じ、到底爲し能はざる事を爲さんとせり。之れ彼れが愚にして憫れむべきところなり。

彼は伯父ナポレオン一世が英雄的人物にして而して其血統を享けたる理由より推論して、伯父以上なる、或は同等なる、又は尠くとも伯父の名を辱しめざる英雄的人物なりと自ら信認し、伯父ナポレオン一世が爲したるが如き、或は殆んどそれに相類似したる事を爲さんとせり。之れ彼れが愚にして憫れむべき人物たるところなり。

彼は失敗せり。遂に失敗せり。彼れが英雄的皇帝の爲すべき事なりと思惟して爲せし事は、悉く平凡にして何等英雄的畏敬の念を以て見るべきものにてはあらずき。

彼れが爲さざるべからず、又容易に爲し得べしと信じて爲さんとせし事は悉く失敗せり。彼れは、彼れが企圖したる事の成らざりし理由を熟考して、己の材幹の凡庸愚劣なるに相対することなく、彼れの命を奉じて補助者となりし重臣に罪を歸せり。或は機會の未だ到らざる所以なりと思惟せり。

悪なるナポレオン三世  
彼れは自己の凡庸愚劣なる人物たることを自覺せず、徒らに伯父ナポレオン一世を學ばんとせり。伯父ナポレオン一世が、全歐の盟主たらんとの非望を企てたる如く、彼れも亦全歐の盟主たらんとの野心を抱き苦惱煩悶せり。之れ彼れが全たく己を知らざりし結果にして、寧ろ滑稽劇の好材料を提供したるものに外ならずとの冷評を戴くに適し、また彼れが一個英雄的偉人物たりし理由とはならず。彼れが愚にして憐れむべき人物たる確證は此處にも亦發見せらるゝにあらずや。

彼れが全歐の盟主たらんと企圖したるは、彼れが全く己を識らざりし結果の野心に過ぎずして、又彼れが斯の如き野心を包蔵するをだも猶僭越の誹を免かれざりしことの曝露し證明せられしは、朕が祖父ウイヘルム一世と戦を交へたる時にあり。

彼れは一擧にして我獨逸帝國を屠らんとし却つて屠られたり。彼れは徹頭徹尾敗北せり、而も彼れがセダンに籠城したる一日の戦ひに紛碎せられ、朕が祖父の軍門に

命を請えり。彼れが戦術に拙劣なるは、此一事を以て既に彼れが英雄的人物にもあらざるを知るべきのみ、況んや全歐の盟主たるに於てをや。

彼れは獨逸の軍門に命を乞ふと共に國虜となりてウイヘルムホーへの要塞内に幽閉せられて、佛蘭西の帝位を失脚せり。彼れは死を惜んで再起を圖らんと思惟せしならんも、彼れの運命は既に此時を以て其の最後の幕に到達し、また起つこと能はざるの悲境となれり。

彼れが生を欲せしは、再擧を謀らんとするにありしは明かなるも、英雄は死を惜むべきと共に死所を擇ばざるべからず、死を惜むことのみを知りて死所を擇ぶことを知らざりし彼れは、確かに其の英雄的人物にあらざりしを證明せるものなり。

佛蘭西國民が、凡庸にして野心のみ熾烈なる彼れを皇帝として推戴することを爲さ

悪なるナポレオン三世

朕は現實の超人なり  
りせば、多大の生靈を失ふの要なかりしなるべし、巴里の包圍攻撃を受ることなかりしなるべし、五十億法の償金を支拂ふの苦痛を免れしなるべし、我獨逸帝國に對して復讐の眼を放つての要なかりしなるべし。

彼れを皇帝に推戴せしが爲に、國土を蹂躪されたる佛蘭西國民は禍なるかな。  
彼れを皇帝に推戴せしが爲に、數十萬の國民を喪ひたる、佛蘭西國民は不幸なるかな。  
彼れを皇帝に推戴せしが爲に、華麗を以て誇りし首都を砲撃破壊せられ、五十億法の償金を支拂はざるを得ざるに至りし佛蘭西國民は憫れむべきかな。

三三三 朕は現實の超人なり

朕は神にあらず、されどまた所謂人にあらず、すべての人類に超絶したるものなり  
即ち超人なり。即ち現實の超人なり。

朕が精神と肉體とは、所謂人の精神と肉體とに等しきものゝ如く観ゆれど、之れ決

して全然等しきものにあらず、等しきが如くにして實は大いに異れり、即ち超絶したるものなり、即ち超絶したる精神なり、即ち超絶したる肉體なり。

三三四 朕は小なる全知全能なり

朕は所謂人の如く一知一能にあらず、數知數能にあらず、また神の如く大なる全知全能にあらず、即ち神に次げる小なる全知全能なり。即ち、朕は人間として知り得る限りのものはすべてを知り、人間として能くし得る限りのものを何事をも能す。

皇帝は皇帝たると共に宰相たらざるべからず。皇帝が宰相たる政治的頭腦と手腕とを有せざれば、其國の政治は振はず、發達せず。頭腦あり手腕ある人物を出すこと能はず。遂に其國は滅亡せざるべからず。故に皇帝は宰相とすべき人物なき場合は親ら國政を執らざるべからず。又國政を委任するに適當なる人物を抜擢登用せざるべからず。又委任したる人物が能く國政を執り得るや否やを監視せざるべからず。之れ皇帝

朕は小なる全知全能なり

朕は小なる全知全能なり  
が皇帝たると共に宰相たらざるべからず、否寧ろ宰相以上の頭脳と手腕とを有せざるべからざる理由なり。

皇帝は皇帝たると共に宗教家たらざるべからず、神學者たらざるべからず。皇帝が宗教家たらず、神學者たらずれば、其國の宗教は邪道に陥り、國民の宗教的信仰統一されず、遂に國民を滅し、國家を亡ぼすに至る。故に皇帝は親から國民の信仰すべき宗教を撰擇せざるべからず。而して又國民が既に信仰しつゝある宗教を批評せざるべからず。之れ皇帝が皇帝たると共に宗教家たり神學者たらざるべからざる所以なり。

又皇帝は社會學者として社會を研究せざるべからず。哲學者として哲學を批評し、哲學の進歩を催し、大哲學者の現はるべく力めざるべからず。或は文學を批評し創作し、或は音樂を批評し、作曲し、演奏する知識と手腕とを有せざるべからず。其他商工農百般に亘りて國民の爲すが儘欲するが儘に放任せず、親から之れを研究批評し、

國民を教導誘接せざるべからず。

朕は超人なり、而も現實の超人なり。全知全能なり、而も小なる全知全能なり。政治も知れり、哲學も知れり、宗教も知れり、文學も知れり、音樂も知れり、商業も知れり、工業も知れり、農業も知れり、其他百般の事を知れり。又其等のすべてのものに就て完全なる批評を下し又實際に於て營すことを得。

朕は第一流の政治家に優れり。朕は第一流の哲學者に優れり。朕は第一流の文學者に優れり。朕は第一流の音樂家に優れり。朕は第一流の宗教家、神學者に優れり。朕は第一流の商業家、第一流の工業家、第一流の農家に優れり。其他百般の事に於て第一流の者に優れり。

朕は詩も作れり、事實に於て詩を作れり。我獨逸古代の神話を詩に作れり、又伊太

朕は小なる全知全能なり

朕は小なる全知全能なり  
利の古英雄も歌へり。而も朕は少年時代より詩を作れり、而も完全に巧妙に——。朕が國民中の批評家は、朕が作りたる詩を見て、「我が皇帝陛下は皇帝たらずして一の文學者として一家を成し得ることを疑はず」と言へり。彼れの評言は最も朕が意を得たる評言にして、又最も能く朕が全知全能なることを知れるものなり。而して朕は詩を作れど詩を製造することなし、興湧けば何等の用意も何等の苦慮熟考も要せず、即座に作り即座に詩ひ得、之れ朕が全知全能の超人たるが故にしてまた後天的詩人にあらずして先天的詩人たるが爲めなり。

朕は又演劇に對しても、多大の趣味を有す。朕は時間の許す限り劇場に臨み、觀且つ批評することを好む。朕は彼等に取りて最も忠實なる觀客たると共に、最も眞面目に忠實なる批評家なり、其の批評に於ても、それを以て衣食しつゝある劇評家或は新聞記者のなせる批評が、往々にして誤れる批評たることを發見することあり。

朕は批評に優れるのみならず、脚本をも作ることを得、又事實親から作れるものを

俳優に演ぜしめたることあり。而も其は見事なる成功なりき。或は脚本を修正することもあり。俳優は常に朕が嗜好に適したるものを演ぜべく苦心し、朕より愉快なる批評を受けんことに専念せり。朕が卓絶したる劇評を爲し得ることも、脚本を作り又修正し得ることも、すべて朕が全知全能の超人たるが故なり。

### 三五 朕が軍事上の興味

朕が軍事上に深大の興味を有することは、朕の國決は皆能く之れを知れり。否な朕の國民のみならず、我獨逸帝國を知れる者は、朕を知れるものは、何國の國民も熟知せり。

されど、朕が軍事上に如何程、深大なる興味を有せるかは、彼等が想像せる以上なり、朕が軍事上に於ける興味を、統計表の如く數字を以て表はし得ば、彼等は自己の想像が餘りに低位なりしに吃驚するなるべきを疑はず。朕親らと雖も、朕は如何なる程度の興味を軍事上に有せるやに就ては、如何なる形式を以てするも、到底表

朕が軍事上の興味



はし語り得ず。朕が軍事上に有する興味の程度を間違なく表はし語り得るものは神以外には全然一人も發見し得ざることを信ぜざるを得ず、何となれば、朕親からと雖も語り得ざる程に深大なるものなればなり。

朕が軍事上に深大の興味を有するは、神より然命ぜられたるなり。軍事に深大の興味を有すべく頭腦を作られて生れたるなり。朕が軍事に深大の興味を有し、時としては他のすべての事を忘ることある程に熱心なるを、彼れカイゼルは精神病的なり、ドンキホーテ的なりと評するものは、朕が小全知全能の超人として神命を奉じて生れ來れるものなることを知らざるが爲なり。

朕がドンキホーテ式人物なりと誤解せらるゝは、全く朕が軍事に熱狂的深大の興味を有するがためなり。

朕は如何に重大なる政治的事件に遭遇するも決して軍事を忘ることあたはず。如何に

何に大なる悲哀に心を痛むるも、決して軍事を忘ること能はず。如何に歡喜すべき事件を發見するも、決して軍事を忘るゝまでに歡喜に酔ふこと能はず。

朕は軍隊を見ることを好み、時間の許す限り軍隊を見んと欲す。又、朕は軍隊に臨みて訓誡を與ふることを好み、演説することを好み。

彼等は雄辯にして真理を含める朕の演説を聞かんことを熱望し、朕の演説は彼等を感動せしむるに充分の力を有す。

朕は我が獨逸帝國の軍の總體にして、彼等將卒は朕の分身なり。彼等は朕が一言一令の下に動くこと猶ほ朕親からの手足の如し。彼等は朕より服従を強制されずとも、彼等は朕に絶対服従せざるべからざるを自覺し、常に絶対に服従せり。

彼等が朕に服従することの絶対なるは、世界に於けるすべての國のそれよりも、より以上に絶対的なり。我獨逸帝國陸海軍が、何れの國と戦ふも敗劔せざるはこれが爲なり。

英國の態度を見よ  
彼等は朕が神の使命の下に生れたる唯一人なることを信じ、朕が小全知全能の超人なること信じ、朕が將來歐洲全土を征服し、其の盟主となりて全歐の覇權を掌握するに至るべきことを能く信ぜり。

三六 英國の態度を見よ

朕が親愛なる我獨逸帝國の民よ！

汝等は海の彼方なる英國が、如何なる態度を以て我獨逸帝國に對しつゝあるかを知らざるべからず。汝等は、彼等の腦が何事を考へつゝあるか、彼等の手は何事を爲し又爲さんとしつゝあるか、彼等の眼は何を意味し何を凝視しつゝあるかを知らざるべからず。

朕は英國が掌握せる海上の覇權を奪取せざるべからず、彼れが海上の王者を以て誇れる頭上に大鐵槌を打下して粉碎し、彼れをして二等國以下たらしめざるべからず。

朕は此計畫の下に軍備を擴張せり、工業を獎勵せり、商業を獎勵せり。外交策もすべて是れに據つて施せり。汝等も亦能くこれを知れり。

我獨逸海軍の大擴張計畫は英國を打撃せんとする目的を以て計畫せるものなることを、彼れが早晩知ることあるべきは朕も亦豫め期せる所なりき。されど彼れが朕の計畫看破は意外に早かりき。爲めに彼れは朕の計畫を無効に終らしめんがため、其の龐大なる海軍を益々擴張すべき計畫に着手せり。我獨逸帝國海軍の大擴張計畫は、今後數年にして完成すべし、完成の曉に於ては英國を優に壓倒し得る大海軍力を有するに至るべきは汝等と共に朕の信ずるところなりと雖も、我計畫完成するに至らずして、敵に看破され準備を爲さしむる結果を生じたるは、我獨逸帝國が其の目的を遂行せんとする上に於て、多大の不利益と困難との必要を覺悟せざるべからず。之れ朕が汝等と共に甚だ遺憾とするところなりと雖も、亦已むを得ざる事に屬す。

英國の態度を見よ

而して之れ決して汝等の罪にあらず、又朕の罪にもあらず、彼れと我國との從來の

英國の態度を見よ  
關係上より、我海軍大擴張計畫が着々として現はるゝ事實は、彼れをして我の目的とするところ那邊に存するかを思はしむるに至るべきは、決して免るゝこと能はざることなればなり。

彼れは對獨策として、我獨逸帝國に舊怨ありて將に燃んとしつゝある佛蘭西に歡を通じ、相提携して我獨逸帝國に對抗し、以て朕が雄圖に制壓を加へんとしつゝあり。而して此の英國の對獨策は、朕をして英國の恐るゝに足らざる確信を彌々強からしむる材料に過ぎず。何となれば、元來彼れと佛蘭西とは歴史的舊怨ありて、相親交し相提携し能はざるものあるにも拘はらず、彼れが其の怨敵たる佛蘭西に親近し、舊怨を忘れて相提携せんとするは即ち彼れが單獨にては到底我に制壓を加へ、我を打破すること能はざるを自認せる結果に外ならざればなり。

彼れが尨大なる海軍は、彼れが誇稱するが如く張大當るべからざるものならざるを

知る。彼れが以て強大なりとするところは、即ち艦艇數の多きを意味せるものに外ならざるを知る。彼れが以て世界無比の大海軍なりと吹聴するところのものは、其の實力の大なるにあらずして總艦艇合計噸數の大なるの謂たるに外ならざるを知る。

而かも彼れの陸軍は、我獨逸陸軍の如く嚴正なる訓練教育を施したるものにあらずるが故に、其の脆弱なること殆んど論ずるの價値なく、國家擁護の重任を完ふし得ざる底のものなることは、既に世界の定評なり。彼れの陸軍の既に齒牙にかくるに足らざるが上に、遂に又強大なりと言ふ海軍の無能なるを曝露す、朕何をか恐るゝの要あらん、朕何をか愛ふるの要あらん。朕は現在の我海軍力を以て、容易に彼れの大海軍を撃破粉碎し得るの確信を有す。

### 三七 佛蘭西の態度を見よ

朕が親愛なる我獨逸帝國の民よ！

汝等は英國の態度に注視すると共に、又隣邦佛蘭西が我に對して如何なることを畫

佛蘭西の態度を見よ

策しつゝあるかを知らざるべからず、彼れの態度が如何に變化しつゝあるかに注意を怠るべからず。

彼れは我獨逸帝國に對して絶對に忘るゝこと能はざる宿怨あり、彼れが國力の充實に汲々乎として猛然復讐戦を決行せんとしつゝあるは、既に汝等は彼等が宿怨を忘れざると等しく熟知せるところなるべし。

朕が親愛なる我獨逸帝國の民よ！

汝等は佛蘭西が對獨策として、英國と親睦し、相協商提携し居るを知らざるべからず。彼れが英國と舊怨を忘れて相親善し相提携して我獨逸帝國に壓迫を加へんとするは、偶々以て彼れ自身の眞價を表白せるものと言ふべし。

英國は固之れ利の爲めには節操を無視して恬然たる國なり、利あれば和し利なければ距る、之れ彼れ英國の根本方針なり、國是なり、高利貸が利ある者を迎へ利なき者

佛蘭西の態度を見よ

を斥くると一般なり。彼れが我獨逸を制壓して依然海上の覇權を掌握せんが爲めに、舊怨ある佛蘭西に歡を通ずるは、敢て怪しむを要せずと雖も、彼れ佛蘭西がまた英國の提唱を歓迎し、其の歴史的國民的怨敵と相親睦し相提携するに至れるの真相は、彼れも亦英國が單獨を以て我に抗争し能はずと自認せしが如く、獨力を以てしては例全復讐戦を起すも、所詮帝政當時に於ける普佛戦争を繰返すに過ぎざるべきを豫想せるに外ならざるなり。

朕が親愛なる我獨逸帝國の民よ！

汝等が既知せるが如く、佛蘭西の海軍は決して恐るゝに足らざる海軍なり、我雄大なる海軍を以て一撃粉碎し去ること、猶ほ朝飯前事の易々たるものなり。彼れの海軍力は英國に劣る事數等なり、露國に及ばざることも適かなり。

彼れの陸軍も亦、汝等が既に熟知せるが如く、憂ふるの要なき陸軍なり。英國の陸軍に比すれば、海軍が英國に劣れるに反して、大いに勝れる所ありと雖も、これ彼れ

佛蘭西の態度を見よ

佛蘭西の態度を見よ  
の陸軍が強大なるにあらずして、英國の陸軍が殆んど問題とならぬまでに脆弱なるがためなり。

然れども、彼等が同盟聯合して我獨逸帝國に挑戦せば、陸軍に於て朕は憂ふる所なきも、海軍においては聊か困難を思はざるを得ず、危険の念を抱かざるを得ず、何となれば彼れ實力に於て強雄ならずと雖も、艦艇の數に於て我より迥かに優勢なればなり。實力微弱なる海軍と雖も、衆寡敵せざる場合なきにしもあらざればなり。

朕が親愛なる我獨逸帝國の民よ！

汝等は決して憂懼するを要せず、寡を以て衆を撃つゝの戦法は、正義を以てしては僥倖以外勝算を期すべからずと雖も、奇襲を以てせば、優勢を以て劣勢を破る以上の大成功を收むることあり。我獨逸海軍は其の艦艇の數に於ては劣勢たるを免れずと雖も戰場に相見ゆる場合に於ては、決して敵に敗らるゝが如き拙劣なる戦略を爲さざるべし。汝等安心して可なり。

征服の順序として、佛蘭西を先にすべきか英國を先にすべきかの問題は、無論佛蘭西を先にせざるべからず。先づ彼れを蹂躪し盡して然る後、海を渡つて英國に鋒を向けざるべからず。此の一般方略上よりするも、佛蘭西が英國と提携聯合するは、我に於て大なる不利なり、困難と危険とを伴ふ不利あり。

利によりて離合を耻ぢざる英國は、朕が利を以て食はせば必ずや動かん、朕が一時的方策を以て彼に有利なる條約を以て説かば彼れは直ちに佛蘭西と提携を断つべきは明かなり。

朕は先づ斯くの如き手段を以て英佛の提携を妨害し、然る後、疾風迅雷の如き勢を以て佛蘭西を討つべし。若し朕の妨害策効を奏せず、彼等の締盟益々堅固を加ふるに至らば、朕にはまた彼等二國を粉碎するの手段を執るべし。決して恐るゝに足らず決して憂ふるを要せざるなり。朕は神の命によりて生れたるものなり、朕は超人なり。朕は全知全能なり。

佛蘭西の態度を見よ

三八 露國の態度を見よ

朕が親愛なる我獨逸帝國の民よ！

汝等は英佛兩國の態度を見ざるべからざると共に、また東方の露國が、如何なる對獨感情を有せるか、如何なる態度を以て接しつゝあるかを知るの必要あるを忘るべからず。

彼れは、英佛其他の諸國と等しく、我獨逸帝國の隆昌を猜視せるもの一なり、我獨逸の軍備擴張を恐れ且つ憂とせるもの一なり。其の日露戰爭前には彼れの大陸軍の真相知られず、我獨逸も彼れに多少敬意を拂ひ居りたるが故に、彼亦我に對して頗ぶる倨傲尊大を極め、朕をして幾分か彼れの吹聴に信を置かしめたるも、日本に敗れて所謂大陸軍の真相暴露し、朕をして態度を全然一變せしめたる結果、而して又朕が陸海の軍備擴張の大計畫を爲すに至りたる結果、彼れの態度も亦一變せり。

彼れは我獨逸帝國が軍國主義なるを知る。彼れは我獨逸國民が如何に剛健にして、

其軍隊が如何に勇敢勇猛なるかを知る。朕が陸海軍が如何なる訓練教育を施されつゝあるかを知る。彼れは我獨逸帝國が全世界に於て殆んど比敵なき大軍國なるを知る。一たび戦へば再び起つ能はざる大打撃を加へらるゝを覺悟せざるべからざるを知る。彼れの立場よりすれば、何等かの手段を以て我獨逸帝國の軍國主義を打破し、國力を根本的に破壊し、將來永遠に其の恐憂を一掃するの必要あり。而かも彼れと我とは犬猿も畜ならざる歴史的怨恨あり、國民的鬱憤あり、我は必ずしも彼れを打破して歴史的憤怒を晴さんとは思はざるも、彼れは我獨逸帝國を仇敵視しつゝあり。

彼れが佛蘭西と同盟を結べるは、我獨逸帝國牽制の目的にありと雖も、彼れ佛蘭西は兵力に於ては殆んど言ふに足らず、彼れが佛蘭西と結ぶの利益は、軍事的方面にも多少ありと雖も、其の最も大なるは佛蘭西の財力の豊富なるを利用し得るにあり。

朕が親愛なる我獨逸帝國の民よ！

汝等は彼れが近時同盟國たる佛蘭西が英國と親善を重ねつゝあるを機とし、頻りに

露國の態度を見よ

英國と親しまんと力めつゝあるを忘るべからず。而して彼れは三國同盟を以て我獨逸帝國に制壓を加へんと計畫しつゝあるを考へざるべからず。

彼等三國が同盟して我に對するは、事實我れに取りて大なる打撃たるを免かれず。我獨逸帝國は彼等の提携を妨害し、提携を不我立に終らしめざるべからず。

朕は露帝を説けり。彼れと奥國の惡感昔日の如くならざるを奇貨として、露獨塊の三國同盟を作らんとして説けり。彼れが支那に對する政策、印度及び亞富汗に對する計畫、土耳其に對する企劃を援助すべきを以て説けり。又佛蘭西の同盟國として恃むに足らざるを説けり。露國が日本と戦ひ危急存亡の難境にあるにも拘らず、佛蘭西は冷然として露國の難境を思はず、恬然として日本の同盟國たる英國と親める實證を擧げて説けり。朕は彼れが佛蘭西を見限つて同盟を解約し、露獨塊三國同盟を組織し、内に於ては擾亂を鎮壓し、外に向つては大いに勢力を伸張し得べく、之れ露國に取りて最も有利なるを詳論して説けり。

されど彼れは、我と提携せば我に利用せらるゝのみにして彼れに利する處なかるべ

きを思念し、朕が勸告を容れずして、依然として佛蘭西を介して英國と結ばんとしつゝあり。

朕が親愛なる我獨逸帝國の民よ！

汝等は英佛兩國が舊怨を忘れて相提携し、我獨逸帝國に制壓を加へんとしつゝあることを忘るべからず、而して又、露國が佛蘭西を介して英國と結ばんと力めつゝあることを記憶より取り去るべからず。而して又、露國は早晚目的を達し、遂に對獨三國同盟の成立することあるべきを豫期せざるべからず。

彼等三國の提携は、如何なる影響を我國に及ぼすかは汝等の容易に想像し得る處なるべし、即ち彼等は我獨逸帝國を孤立の地位に置き、極力壓迫を加へ、軍國主義を打破せんとするものにて、出來得べくんば我國方に根本的打撃を加へ、また容易に癒すこと能はざる大瘡痕を負はしめて、一等國たる權利を剝ぎ取らんとするにあるは炳乎としてまた考ふるの要なし。之れ我獨逸帝國に取りては、實に容易ならざる問題な

露國の態度を見よ

露國の態度を見よ  
り、而して大なる打撃たるを免かれざるなり。而して又朕が計畫せる全歐統一に大頓挫を來すべき原因を作ることなきやを憂へざるを得ざる重大問題なり。

朕が親愛なる我獨逸帝國の民よ！

然れども汝等は決して帝國の前途に就て悲觀的想像を逞ふするを要せず、彼等三國と一朝干戈を執て相見ゆるに至る時、柏林城下の盟をなさざるべからざる運命に至ることなきやを憂ふるを要せず。

朕は彼等三國に對する同盟妨害運動をなすことに怠らず、絶へず巧妙なる外交政略を以て、萬一彼等と戦を交ゆるに至るも、三國をして聯合を組織せしめざるべく謀りつゝあり、汝等は安心して朕を信頼せよ、朕は神の使命を有して生れたる汝等の皇帝なり、全知全能の超人なり。如何なる事あるも光輝ある我獨逸帝國を暗黒の裡に葬ること無さを斷言す。

### 三九 戦勝は絶対權威

戦争が最も困難なる國際問題を解決する上に於ての最後の手段最後の裁判として用ひらるゝことの廢止せられざる間は、所詮戦争はすべての條約を破るものなり。如何なる條約も破られることを防止すること能はざるなり。

戦争が武器を以てせられ、又殺傷することの廢止せられざる限り所詮戦争は慘虐なるものなり。如何に其名目は人道の爲め正義の爲め平和の爲めと附せらるゝとも、戦争行為其者は所詮慘虐にして背人道行為たるを免かれ得ざるものなり。

勇敢忠烈なる朕が陸海軍人よ。汝等は敵と相見え相撃つ場合に於て、決して正義に適せるや否やを思ふこと勿れ。決して人道に悖ることなきや否やを考慮すること勿れ。汝は只だ上官の命するまゝに勇敢に進め、而して猛烈に戦闘せよ、決して其間正義を思ひ人道を顧るの要なきなり。

戦勝は絶対權威



勇敢忠烈なる朕が陸海軍人よ。汝は敵を敗ることに於ては、決して手段を擇ぶことなかれ、己れを損せずして敵を多く殺傷するに適したる方法手段ならば、如何なる惨虐なる方法たるも可なり。如何なる惨酷なる手段たるも可なり。又汝等に危害を加へ、或は名譽を毀損し、或は權威と利益とを冒さんとするものあらば、戦闘員たると非戦闘員たるとを問はず殺戮するも可なり。又其殺戮の方法に至りても亦如何なる方法を以てするも可なり。何となれば所詮戦争は惨虐なるものなればなり。背人道行爲なればなり。

勇敢忠烈なる朕が陸海軍人よ。汝等は如何なる場合と雖も敵に捕虜となり或は降服するは、絶對に不名譽たることを決して忘るゝこと勿れ。汝等の中、一人たりとも多く捕虜となり、降服者を出すは、常に汝等のみの不名譽にあらず、國家の不名譽なり朕が不名譽なるを忘るべからず。

汝等は鑿くまでも戦はざるべからず。たとへ最後の一人となるとも、決して敵に捕虜となる勿れ、決して敵に降服すること勿れ。朕は決して汝等を敵の捕虜たらしめんが爲めに戦を命ずるにあらず、敵に降服せしめんが爲めに戰場に起かしむるにあらず。汝等は何事に訓練され、何事を教育され、何物を有せるやを考一考せよ。汝等を教育訓練するは敵を敗らんが爲めの教育なり訓練なり。汝等が有せる武器は敵前に抛棄せんが爲めにあらずして敵と戦はんが爲めなり。一人たりとも敵を多く殺傷せんが爲めなり。斯の如きことは朕が教へずとも汝等は既に十分に知れる處ならざるべからず。

朕は汝等の總體にして、汝等は朕が分身たることを忘るゝなかれ。汝等の一人が捕虜となるは即ち朕の一分身が捕虜となりたるなり。汝等の一人が敵に降服するは即ち朕の一分身が降服するなり。汝等が敵に捕虜となり降服者となるは決して朕に忠なる所以にあらず、寧ろ汝等は朕を辱かしむるものなり。

日本に利用せらるゝ英國

汝等は敵を取らんが爲めには、又敵を捕虜とし降服せしめんが爲めには、或は汝等自身が敗られざらんが爲めには、汝等自身が捕虜とならざらんが爲めには、汝等が降服者とならざらんが爲めには、如何なる方法を講じ如何なる手段に訴ふるも決して咎ひる所にあらず、また決して正義に反せるや否やを思ふこと勿れ、人道に悖戻することなきや否やを顧慮すること勿れ。戦争の勝利は絶対權威なればなり。戦争行為は所詮反正義行為にして背人道行為たるを免かれざるものなればなり。

屠れ、汝等は一切の方法と一切の手段とを盡して敵を屠れ、而して悉く屠れ、汝等は必ず勝利者となるを得べし。

四〇 日本に利用せらるゝ英國

極東の新興國日本、彼れは日清戦争によりて確實に歐洲列國間に其の存在を認識せられたり。彼れは歐洲列國間に強か弱か疑問の國として取扱はれつゝありし尨大なる支那を蹴破して頓に頭角を現はし來れり。

彼等が文明的自覺を爲したるは、半世紀の過去即ち封建制を破壊して立憲政體に改革したるにあり。爾來彼等は先進歐洲文明を輸入移植するに汲々乎として努力せり。而して彼れは殆んど四十年間はこれを繼續し、不撓不屈歐洲列國に比肩する文明を作らんとせり。然れども、彼等が努力せし四十年間は所詮模倣の時代なりき、如何にして彼等を凌駕し得る文明を作らんかにあらずして、如何にして彼等と並行し得るかにてありき。

斯くて彼等は殆んど其目的を達せり。彼等が其模倣し得たる文明の試験は即ち日露戦争にてありき。彼等は試験に及第したり、而も見事に確實に及第したり。而して其の文明的實力に於ては歐洲の列國と比肩し得るは勿論、或點に於ては確かに凌駕する程に充實せられたり。或點とは何ぞや、即ち彼等が唯一の誇とせる兵力の強大なり。

彼れ日本の陸軍は、露國に優れり、英國に勝れり、佛蘭西に優れり、埃國に優れり

日本に利用せらるゝ英國

日本に利用せらるる、英國  
西班牙に勝れり、米國に勝れり、其他の群小國一として彼れの右に出で得ざるのみならず、殆んど及ぶ者ある無し。而も強勇なる日本陸軍を一撃にして粉碎し得るものは只だ我雄大なる獨逸帝國陸軍あるのみ。彼れの海軍亦然り。

而も彼等日本人が戦備を整ふるに當りての努力は非常なる努力を爲すことを厭はず凡百努力を盡して厭はず。而して彼等が諜報を得るの熱心も亦驚くべきものあり、歐洲の都市に出没し散在する日本人は殆んどすべて間諜なるを斷言するも過言にあらず。彼等の歐洲の都市に在る、留學生の風をなせる者は悉く留學生なるにあらず、商人風をなせる者も悉く商人なるにあらず、職人風を裝へる者亦悉く純然たる職人なりと早斷すべきにあらず。

而も各國大使館附武官の多く出入する理髮店の主人が純然たる理髮業者にあらずして、實は日本參謀本部の將校なりしことは、朕の親しく知れる事實なり。日本の士官は商人風となり、職人風となり、歐洲の各都市に入り込み、微事細事に亘りて探査し

つゝあり。彼等は斯くの如くにして、黄色人の最初の勝利を占めたり。彼等は猶ほ將來に於ても勝利者たらんとして一層の努力と一層の熱心を以て爲しつゝあり。

而して此最初の勝利の結果如何は未だ容易に知るべからざる、又容易に斷言し得ざる問題なりと雖も、彼等が英國を同盟國として有せるの結果は、彼等の事業と計畫とを殆んど何等の阻碍なく進捗せしめつゝあり。

然れども白人は日本人が將來に於ても極東以外に勢力を擴張し得ざるべしと思惟して安心すべからず。彼等は猶ほ幾多の計略を企みつゝあるを忘るべからず。例せば、彼等は條約の文句の如く、鴨綠江沿岸に一市場を開放したりと雖も、彼等は是を以て足れりとせず、同時に鴨綠江下流に一大鐵橋を架設して以て船舶の外海より江水を通航するを妨止せんと計畫せるにあらずや。

英國は日本と同盟提携して、支那經營の目的を安全に達成せんとしつゝありと雖も

日本に利用せらるる、英國

日本に利用せらるゝ英國  
英國は果して日本との提携が、現在は兎も角、將來に於て啗臍の悔あるに至らざるなきやを考へざるべからず。何となれば、日本と提携して日本を利用せんとしつゝあるも、之れ英國が日本を利用せんとしつゝありて、却つて日本に利用せられつゝあるものなればなり。

日露戦争に於て、英國は日本の爲めに如何程利用されたるかを見よ、彼れは自國に於て日本の軍資を供給したるのみならず、日本の交戦國たる露國の同盟國佛蘭西を始終中立せしむるに力めたるにあらずや、佛蘭西を中立せしめたるのみならず、佛蘭西の資本家をして密かに日本の公債を引受けしめたるにあらずや。之れ取りも直さず、佛蘭西をして露國との條約に背馳せしめ、却つて日本を援助せしめたるものと謂ふべく、日本に取りては絶大の利益となりしも、露國に取りては非常なる不利益たりしを否認すべからず。

日本は戦法と勇氣とに於て迥かに露國に優越せしは争ふべからざる事實なるも、日本が局外國をして驚嘆せしむるまでの大勝利を獲得したるは、彼れが英國を利用すること巧妙なりしがためなり、英國を利用すると共に又露國の同盟國たる佛蘭西を牽制せしめたるがためなり。

英國は日本に利用せられて日露戦争を作らしめたり。而して日本に勝利を得せしめたり。而して日本を一等國たらしめたり。英國は過去に於て日本を利用せんとしつゝ却つて日本に利用せられたり、現在に於ても利用せられつゝあり、將來に於ても亦徹頭徹尾利用せられ終らざるを得ざるなるべし。

日本は英國を利用して露國の支那經營に壓迫を加へつゝあり、英國は日本を利用して我獨逸帝國の支那經營に制壓を加へんとしつゝあり。此點より見れば、日本と英國が相利用すること互格の地位にありと雖も、將來に於て、日本が更に強大となりたる

日本に利用せらるゝ英國

英國眞に自覺せば  
場合は、英國の支那經營は全部日本に奪取せらるゝの已むなきに至るべし。これ火を見るよりも明瞭なる事實にして、英國が茲に想倒せざるのみならず、日本との親交を益々深からしめんとしつゝあるは、彼れに先見の明なき所以にして、其迂濶愚昧眞に憫笑に堪へたり。

#### 四一 英國眞に自覺せば

英國が眞に自國を愛せば、眞に自覺して自國の利益を圖らば、決して黃人國日本と提携するは絶對に不可なり。寧ろ我獨逸帝國と提携して行動するの安全なるに如かず英國の支那經營のみならず、東洋に於ける將來の權利を侵し利益を害せんとするものは、露國にあらず、佛蘭西にあらず、我獨逸帝國にても無く米國にてもなく、實に彼れが唯一無二の友邦として信頼せる日本なることを知らざるべからず。

黃色人種の將來の如何に危険にして恐るべきかは朕が屢々論じて白人に警告を與

へたるが如し、而も日本は其危険にして恐憂すべき黃色の惡魔中の最も強大なるものにして、一世紀後に於ける彼れの白人國に及ぼす影響は眞に測るべからざるものありて存するを信ぜざるべからず。

英國が眞に自覺して自國の東洋に於ける權利と利益とを保護し、東洋經營を將來牢固なる安全の地位に置かんと欲せば、日本と同盟を解かざるべからず、日本との提携を全然斷つて我獨逸帝國と提携し行動せざるべからず。而して日本を亡ぼし、支那を分割し、黃色人を地平線下に壓迫して、恐憂すべき黃禍を根絶せざるべからず。

然れども英國が日本と提携するは、朕が全歐征服の計畫に或る利便を與ふるものなしとせず、而も其利便が如何なるものなるかは、朕が腦中の計畫は朕の口をして明言詳説せしむるの自由を許さずと雖も、多少の利便を與ふるものあるべきは明かなり。

愚なる哉英國國民よ！、憫むべきかな英國國民よ！、笑ふべきかな英國國民よ！、

英國眞に自覺せば

朕を誤解せしむる新聞記者  
 汝等は日本人を利用せんとして却つて日本人に利用せられつゝあることを知らざるか  
 日本をして露國との戦に勝利を得せしめたるは汝等にあらざるや。露國の攻守同盟國たる  
 佛蘭西に中立を嚴守せしめ、のみならず彼れを絡籠して日本に軍費を供給せしめたる  
 は汝等にあらざるや。汝等は將來に於て汝等が苦心經營しつゝある東洋の利益と權利  
 とを日本人の手に渡すの已むなきに至るべきことを覺らざるか。斯くて始めて愕然と  
 して永夜の夢より醒め切齒扼腕することあるべきを覺らざるか。眞に汝等は迂濶千萬  
 なる國民なり。眞に汝等は憫むべき國民なり。眞に汝等は嗤はざるを得ざる愚蒙なる  
 國民なり。汝等は遂に日本人の爲めに迫害され、日本人の爲めに亡ぼさるゝに至らん。  
 あゝ迂濶なる英國の民よ！  
 あゝ憫むべき英國の民よ！  
 あゝ嗤ふべき英國の民よ！

四二 朕を誤解せしむる新聞記者

朕を天下に誤解せしむるものは新聞記者なり。  
 朕をドンキホーテ的空想を逞ふするものなり誇大妄想狂に罹れるものなりと、誤  
 評惡傳したるものは彼等新聞記者なり。而して天下を斯く誤解せしむるに至らしめたる  
 は全く彼等新聞記者の罪なり、業なり。

朕を其の古代に於て見るが如き傲慢にして暴逆なる專制君主なるかの如く慢評した  
 るは彼等新聞記者なり。而して天下をして然く誤想せしむるに至りたるは、全く彼等  
 新聞記者の罪なり、業なり。

朕がナポレオンの私製英雄にして、又彼れの如く大野心を包蔵せる大野心家なりと  
 惡評したるは彼等新聞記者なり、而して天下をして斯く誤信せしむるに至りたるは、  
 全く彼等新聞記者の罪なり、業なり。

朕を誤解せしむる新聞記者

朕を誤解せしむる新聞記者  
彼等は何が故に朕を天下に誤解せしめんとするや、何の必要あれば朕を悪評誤傳して、朕と天下との融合を妨害せんとするや、朕は彼等の心事を怪まんよりは寧ろ憫笑すべきものたるを思はざるを得ず。  
實に彼等新聞記者の無責任は奇怪千萬にして、人の人格を傷け、人の名譽を毀損し人を罪惡と不遇の境涯に陥れ、社會を毒し、國家を紊り、民心を攪亂す、其罪や決して輕少なりと言ふべからず。

醫師は醫科試験を受けて始めて病人を診斷することを得、辯護士は法科を卒業したるものならざるべからず、然るに彼等新聞記者のみは、何等の試験を受くることなし二十歳位の小僧に毛の生へたる男が、大新聞に論説を記し、而も其論説は社會の聲國民の輿論と認められて世界に反響す、之をしも危険なりと言はずんば、何を以て危険なりと言はんや。

事物を論ぜんとすれば其事物に就て充分なる研究をなさざるべからず。而して充分なる知識あらざるべからず。人を論じ人を傳せんとなせば、其人を充分に研究せざるべからず、其人のすべてを知らざるべからず。彼等新聞記者は、事を論じ物を説く場合果して充分の用意を以てせるか、即ち充分の研究を遂げたる結果の満足なる知識を有せるや、朕は、決して然らずと斷言するを憚らず。何となれば、彼等の草する論文を見れば何等研究の跡を認むる能はず、何等卓越せる知識を發見すること能はざればなり。

彼等は朕を知らず、朕が何者たるかを知らず。

彼等は、朕が神の命によりてホーヘンツォルレン家に生れたるを知らず、朕と獨逸國民との關係は、國民が朕を皇帝に撰びたるにあらずして、朕が神命によりて朕が國民たるべく撰びたるものなることを知らず。朕が思想、朕が言論、朕が行爲は獨り神のみ之を拘束し得るものにして、他は何者と雖も非難し掣肘を加ふる能はざるものなり。

朕を誤解せしむる新聞記者

新聞記者を撲滅せん  
ることを知らず、朕が所謂人にあらずして神と人との中間に位する小全知萬能の超人たることを知らず。朕が政治は神に對してのみ責任ありて、議會にも國民にも責任を負ふべきものにあらざることを知らず。彼等は朕についての知識は殆んど皆無なり。彼等が朕をドンキホーテ式空想家なりと評するは是れが爲めなり。朕を誇大妄想狂に罹れるものなりと惡口するは是れが爲めなり。朕がナポレオンの大野心家なりと慢評するも是れが爲めなり。而して天下に朕を甚しく誤解せしむるは是れが爲めなり。

#### 四三 新聞記者を撲滅せん

無知にして何等の識見をも有せざる彼等新聞記者が、人を誤り、社會を害し、國家民心を攪亂する禍は、邪宗の禍以上なりと言ふも決して以下なりとは謂ふべからず。彼等は朕を天下に誤解せしむるのみに止らず、社會を紊亂せしめんとするものなり。民心を動搖せしめ國家を滅亡の暗黒に誘導せんとするものなり。彼等が論ふ所の聲を聞けば、我は人の敵なり社會の賊なり國家皇帝を滅さんとする

逆徒なり、如何にして人を誤らんかを思ひ、如何にせば社會を攪亂し得べきかを考へ、如何にせば國家と皇帝とを亡ぼし得べきかを研究せるものなりと云ふが如く聞ゆるにあらずや。

朕は彼等を撲滅せざるべからず、朕親からの爲めに——。國家國民の爲めに——。斯くの如き危険分子を一掃し、神の使命を遂行し、國家國民を世界の全表面に輝かしむるは、朕が神に對する責任なり。

#### 四四 責任は神に對してのみ

朕が親愛なる我獨逸帝國の民よ！  
朕が祖父ウイヘルム一世は、神の使命によりて我光輝ある獨逸帝國を建設すべく生れ來れり。而して彼れは非常の努力と非常の熱心とを以て、遂に獨逸大帝國を建設し、神の使命を完了せり。神は祖父ウイヘルム一世に授くるに大英雄の頭腦と手腕

責任は神に對してのみ



責任は神に對してのみ  
とを以てせり。而して祖父ウイヘルム一世は、此の英雄の頭腦を以て思考し畫策し、  
此の手腕を以て殆んど一舉にして我獨逸帝國を建設せり。

朕が親愛なる我獨逸帝國の民よ！

朕も亦、祖父と同じく神の使命によりて生れ來れり。重にして且つ大なる使命を帯  
びてホーヘンツォルレルン家に生れ來れり。然れども歐等は誤解すべからず、祖父が  
受けたる使命と朕が授けられたる使命とは決して同一のものにあらざることを――。  
祖父の使命は我獨逸帝國の建設にありしと雖も、朕が使命は祖父の遺産たる獨逸帝國  
を受領し、之れを完全に保有し統治するのみに止まらず、全歐洲を統一して其の盟主  
となり、更に進んで全世界を征服して其大盟主となり、世界の平和を永遠無窮ならし  
むべき大使命を有して生れ來れるなり。

朕が親愛なる我獨逸帝國の民よ！

汝等は知らざるべからず、朕が汝等の所謂人にあらずして萬能の超人たることを。  
而して猶ほ汝等は記憶して忘るべからず、即ち、朕は汝等獨逸帝國の民によりて皇帝  
に撰ばれたるにあらずして、朕が神より與へられたる權利によりて汝等を撰びたるこ  
とを――。則ち、全歐統一、世界征服の大使命を遂行する上について最も適當なりと  
思惟する國民を撰すべして自由權によりて朕が神の使命を果す上に於て最も適當  
せるものと認定して汝等を撰びたるものなることを――。

朕が親愛なる我獨逸帝國の民よ！

汝等は特に神より撰ばれ朕より擇ばれたるを知ると共に、猶ほ知らざるべからざる  
ことあり、心膽に銘じて一刻片時たりとも忘却すべからざることあり。即ち朕により  
て朕が臣民たるべく擇ばれたる汝等は、朕に對しては絶対の服従をなさざるべからざる  
ことを――。朕が思想することについて、朕が言説することについて、朕が行動する  
ことについて、汝等は何等の非難をすべし權利を毫も有せざることを――。朕は絶

責任は神に對してのみ

武力は國家防護の最上手段  
 對の主權者なり、朕が權力は絶對の權力なり。朕は政治についても神のみに責任を有し、議會及び汝等國民には毫末の責任も有せず、汝等は朕が政治が汝等の意に満たざることあるも、汝等は緘黙して、次に施さるべき政治の好果を待たざるべからず。汝等が朕が施す政治に就て、異論を建て非難の聲を漏すは、朕に對して不忠の民たるのみならず、汝等の特撰したる神に對して尊嚴を傷つくるものなり、神に對して異論を挟み神を非難するに等しきものにして、汝等が斯くの如き態度は光輝ありて大使命を有する獨逸帝國の國民たる權利を失ふものなるを忘るべからず。汝等が朕に忠順なるは即ち神に忠順なる所以にして、其處に始めて汝等が神に對する敬虔の念あるを發見し得べし。

#### 四五 武力は國家防護の最上手段

朕が親愛なる我獨逸帝國の民よ！  
 其國の武力の強大なると貧弱なるとは、其國の盛衰興亡を左右するものなることは

何人も否定すること能はざる真理なり。尠くとも、武力が國家を防護する最上唯一のものとするに於ては眞理として認めざるを得ず、朕が祖父ウイヘルム一世は、武力を強大にして我獨逸帝國を建設せり、武力を以て四隣を唯伏せしめ、我獨逸帝國を堅固にして最も安全なる基礎の上に置けり。之れ朕が繼説するまでもなく、汝等の既に熟知せる處なり。

朕が親愛なる我獨逸帝國の民よ！  
 朕も亦、朕が宿志にして而も神より命ぜられたる全歐統一の大事業は、遂に武力を以て遂行せざるべからず。朕は武力以外の手段方法にしてより以上のものあらば、必ずしも惨虐なる戦を好む者にあらざるが故に、其れに據ることを否むものにあらずと雖も、如何せん現代に於ては、此武力を以て國家を防護する唯一最上の手段とするの外なきことを――。

武力は國家防護の最上手段

朕が性格を知らず、朕が使命を知らず、又其の使命に因れる朕が主義を眞解せず、只だ表面に現はれたる朕が言論行為のみを以て朕が全般を批評せんとする皮相の觀察者流は、朕が性格は徹頭徹尾好血好戰的性格なりと言へり、朕が言論は平和を攪亂せんとする危険なる言説なりとせり、朕が主義は徹頭徹尾好戰主義なりと言へり、朕が行為は列國をして疑心を生ぜしめ恐憂の念を抱かしむべき不穩の行為なりと云へり、朕が態度は徹頭徹尾挑戰的態度なりと言へり、されど、是は全く朕が何者たるかを知らざるに起因する誤解なり、朕が超人にして萬能たることを知らざるが爲めの誤解なり、朕が神より如何なる使命を與へられて生れ來り獨逸皇帝となれるかを知らざるに基ける誤解なり。

四六 餘儀なく血を好み戰を好む

餘儀なく血を好み戰を好む

朕が親愛なる我獨逸帝國の民よ！

朕は決して血を好み戰を好むものにあらず、徒らなる好奇癖に驅られて慘虐なる背人道行為をなさんとするものにあらず。されど、されど、朕は其好まざる血を好まざるを得ざる場合あり、其好まざる戰を爲さざるの已むなき場合あり。即ち我獨逸帝國を防護し、又使命にして宿志たる全歐統一の目的を達成せんが爲めには、遂に之れに訴ふるの外、又より以上の手段なく方法なければなり。

四七 之れ列國の罪なり

朕は決して黄色の惡魔たる日本人の如く血を好むものにあらず、又戰を喜ぶものにあらず。然れども國家の防護と宿志貫徹の必要上、軍國主義を我獨逸帝國の國是とせざるべからず、之れ實に已むを得ざることに屬す。

而も、朕をして斯くの如き軍國主義を國是として、軍備を擴張せざるべからざる必要を生ぜしめたるは、神にもあらず朕にもあらず、又國民の罪にもあらずして實に周圍の諸國なり、此等の諸國が朕をして斯の如き國是の下に軍備大擴張を餘儀なくせ之れ列國の罪なり

しめたるなり。朕また何をか好んで平和なる天地に波瀾を起すが如き事を爲さんや。

而して是等の各國は我獨逸帝國の軍國主義を非難し、軍備の擴張を攻撃す、何が故に彼等は我獨逸帝國の國是たる軍國主義を非難するや、何の必要ありて彼等は我獨逸帝國の軍備擴張を攻撃するや。

彼等が我軍國主義を排し非難するは、朕が武力を以て侵略を選ばせんがためなりと傲せり、我軍備の擴張を攻撃するものは、將に朕が侵略を實行せんとする準備なりとして攻撃す。然れども、朕は決して侵略主義にあらず、露のペテロ帝の如く徒らに自己の版圖を擴張せんとするものにあらず。ナポレオン一世の如く野心に驅られて他國の領土を蹂躪せんとするものにあらず。朕は光輝あり名譽ある我獨逸帝國を防護せんが爲めに軍國主義を國是とし軍備を擴張するなり、神の使命たる全歐統一を遂行せんが爲めに軍國主義を執りて軍備擴張を爲すなり。

我獨逸帝國の軍備擴張を非難攻撃するものは、先づ自國に軍備あるや否やを顧み見るべし、而して其軍備が如何なる目的の爲めにあるやを思ひ見るべし。自國に軍備ありて我獨逸帝國の軍備を云々する者は、己の泥棒なるを知らながら他の泥棒行爲を非難攻撃するに等し、自國の軍備を擴張しつゝ我獨逸帝國の軍備擴張を非難攻撃するものは、己の臭を措きて他の臭を非難するに等しきものなり。他人の不潔を嗤はんとするものは己れ先づ清潔たるを要するが如く、我獨逸帝國の軍國主義を攻撃し軍備擴張を撤廢せしめんとするものは、先づ自國の軍備を撤廢して然る後にするを要す。自國の軍備あり且つ其軍備を擴張するに汲々として猶他國の軍國主義を非難し、軍備擴張を攻撃するは、恰も己れ背道徳的行爲を爲しつゝ而も猶他者の背道徳的行爲を非難攻撃するに等しく、嗤ふべきの骨頂なるを免れず。

朕が親愛なる我獨逸帝國の民よ！

汝等は我獨逸帝國の軍國主義が、只だ徒らに武力を強大にして他國に誇示せんとす

之れ列國の罪なり

地中海上の日章旗

るが雄き兒戯に等しきものにあらざるを知らざるべからず。又朕が虚榮心或は野心より基因したるものにあらざるを知らざるべからず。而して又我軍備擴張が隣邦の小弱國に鷲爪の威を逞ふせんとするの目的にあらざるを知らざるべからず。我軍國主義は帝國の國是なり、我帝國の因て以て樹てる所以なり。我軍備擴張は帝國の防護を完全ならしむると、朕が宿志にして而も神の使命たる全歐統一の目的を遂行せんが爲めなり。

而も汝等は、我軍國主義を國是とするに至りたる所以も、軍備を大々的に擴張せざるべからざるに至りたる理由も、周圍の諸國が然せざるを得ざるに至らしめたるものなることを知らざるべからず。

四八 地中海上の日章旗

あゝ歐洲の民よ！

汝等は覺醒せざるべからず、鈍れる神經を刺戟して鋭敏にせざるべからず。眠れる

眼を見開らかざるべからず。而して汝等は自己の周圍たる歐洲の形勢如何を見ずして遠く東洋の天地に、注意周到なる眼光をそそがざるべからず。嗚呼東洋の天地、今や如何なる雲か動きつゝある……、如何なる動物や潜める……、汝等は其動ける怪雲の何者たるかを知れりや、汝等は其潜める動物の何者たるかを確かめ得たりしや。

あゝ歐洲の民よ！

汝等試に世界全圖を展いて東洋の部を視よ。亞細亞大陸の東海岸に長さ連鎖状をなせる一小島の明かに記されあるを見るべし。之れ東洋の新興國にして黃人を以て充されたる日本なり。汝等が大なる注意を以て見ざるべからざる怪雲の正態は即ち是なり、潜める動物は即ち是れなり。

汝等は彼れ日本が半世紀前に於ける状態が如何なりしか、而して半世紀後の現在に於ける状態が如何なるかは、茲に縷説するまでも無く熟知せる處なるべし。然れども汝等は日本を熟知して未だ熟知せざるものたるの非難を免かれざるべし。何となれば

地中海上の日章旗

地中海上の日章旗  
汝等は過去と現在に於ける日本を熟知せりと稱するも、將來に於ける日本が如何なる日本となるべきか、我歐洲と日本との關係が如何の程度にまで複雑となるかに想到することなければなり。

あゝ歐洲の民よ！

日本は新興の國なり、英氣鬱勃たる新興の國なり。日清戦争に勝利を得て世界的日本となり、日露戦争によりて世界の列國をして侮るべからざる日本なることを痛切に感ぜしめたる新興の強大國なり。汝等は將來恐るべき日本とのみ思ひ、彼れに將して何等の策も施さざるは、日本をして益々野心を逞ふせしめ、日本をして愈々強大ならしむるものなるを知らざるべからず。而も日本が益々野心を逞ふし愈々強大の度を加ふることは、東洋のみに限られて汝等の住める歐洲と無關係なるべしとは思惟すべからず。

日本は英國と提携して支那經營に力を盡し、種々なる計畫をなしつゝあり、英國は

日本を利用して支那經營を發展せんと努力しつゝあるも、日本は英國に利用せらるゝが如く装ひて、實は却つて英國を暗々に利用しつゝあり、之を覺らざる英國の愚なること固よりなりと雖も、英國を籠絡し利用しつゝある日本の根柢は、決して等閑視すべきものにあらず。汝等は此一事を以て見るも、日本の將來の發展が我歐洲に取りて如何に恐るべき結果を來すものなるか、如何に寒心に堪へざるものなるかを想像することを得るなるべし。

あゝ歐洲の民よ！

日本人は汝等と人種を異にし而も血に勇み戦を喜ぶ國民なり。來らんとする黃禍の原菌なり。而して彼れは自國を益々強大にすると共に同文同種たる隣邦支那を覺醒せしめんと、頗る力めつゝあり。汝等は日本が支那覺醒に盡力せるを何が爲めなりやをしれりや、是れ日本が支那を覺醒せしめて一九となし聽て歐洲に殺倒せんとする黃禍の準備運動なりと見るも決して誤謬の見解にあらず、例令日本の支那覺醒運動が遂に

醒めよ！醒めよ！  
失敗に終ることありとするも、彼れが歐洲に向つて權利と利益とを擴張せんとするの大野心は毫も減退することなきのみならず、却つて激増するものあるべきは疑問とすべからざる程に明かなり。彼れ支那に大勢力を布植して、支那に於ける列國の勢力を驅逐するのみに止らず、曾て韓國を併呑したるが如く、名を保護に借りて併呑し、漸次鷲爪を印度方面に逞ふし、遂に地中海に日本艦隊を遊弋せしむることの實現せらるゝは、必ずや一世紀を出づることなかるべし。而して汝等は日本皇帝より歐洲の事について意見を聞かざるを得ざるに至らん。

四九 醒めよ！醒めよ！

あゝ歐洲の民よ！

汝等は惡魔の襲ひ來らんとするをも知らず、安心の睡眠を貪れるものと云ふべき危険の前にあり、極東に鋭き爪を研ぎつゝある黄色の惡魔は汝の首を狙ひつゝあり、汝等の領土を覗ひつゝあり、汝等の聖物と寶物とを掠奪せんと謀計を廻らしつゝあり

彼れは汝等が眠れるに乗じて、極東より歐洲の中央に向つて恐ろしき坑道を穿ちつゝあり。懸て汝等の足下には爆藥裝填されん、而して戰慄すべき慘劇の幕は開かるべし地中海上に彼等の軍艦旗の繚る時汝等が周章狼狽して擊攘せんとするも、其は盜賊を捕へて急遽刑法定案を議會に提出せんとするの類にして所詮噬臍の悔を遺すに過ぎざらんのみ。

醒めよ！、醒めよ！、歐洲の民よ！。汝等が永夜の夢より醒めざるべからざる秋は今なり。醒めて而して黄色の惡魔の慘禍を永久に除くべき方法を講じ、手段を執るべきは今なり。

朕を恐日病に襲はれたる者と言ふ勿れ。朕は神の使命によりて生れたる者なり、全知全能の超人なり、彼れ等が今何を想ひ、何を爲し、何を爲さんとしつゝあるかは、宛がら掌上の物を指すが如く、朕が心眼に映ぜり。

醒めよ！醒めよ！

基督は墮落宗教  
朕を恐黄熱に冒されたる者と評するなかれ。朕が黄禍の豫言は、必ずや今後一世紀を経ずして實現せらるゝ時あるべし。汝等は慘憺たる黄禍に遭遇して始めて醒めんよりは、寧ろ今日に於て覺醒し、黄禍を未前に防止根絶するの安全にして容易なるにかざるを知らざるべからず。覺めよ歐洲の民よ、醒めよ歐洲の民よ！。汝が醒むべき秋は今日にあり。

### 五〇 基督教は墮落宗教

オ、朕が信頼する獨逸帝國の民よ！。

汝等は宗教を欲するか、而も如何なる宗教を欲せんとするか。宗教家と稱する者は信仰は自由なりと説く、汝等は彼等の言を信ぜんとするか、彼等の説く所の宗教は眞の宗教なりと信ずるか

朕は汝等に告げん。汝等は決して基督教を奉ずること勿れ、所謂新教を信ずること勿れ、所謂舊教をも信ずること勿れ。汝等は新教を以て、或は舊教を以て眞の教へな

りと信ずることなかれ。基督教は新教も舊教も眞の信仰にあらずして墮落せる信仰なり。決して我が光輝あり名譽ある獨逸民族の運命を托すべきものにあらず。

汝等は其新教たると舊教たるとを問はず、所謂基督教なるものは、如何にして成れるものなるかを知れりや、如何にして製造されたるものなるかを知れりや。而して此宗教の説く所の内容が如何なるものなるかを詳細に分析し検査し見たることありや。元來基督教なるものは、東洋文明と羅馬文明との抱合より成れる宗教なり、即ち此兩文明の接觸より作られたる混血宗教なり、而して其の説く所のものは、曰く愛なり、曰く善なり、曰く忍耐なり、曰く献身なり、又一言の勢力について説く所無し。

オ、朕が信頼する獨逸帝國の民よ！。

汝は斯くの如き混血的宗教を眞の宗教なりと信ずるや、斯くの如き墮落せる信仰を眞に尊重すべき信仰なりと信ずるや。斯くの如き信仰が汝等に幾何の利益を齎すべきかてふ質問に對して確かなる答解を與へ得るや。汝等の信仰するに足る宗教なりと



國民を骨拔さなす宗教  
信するや。

### 五一 國民を骨拔となす宗教

オ、朕が信頼する獨逸帝國の民よ！  
汝等は東洋文明の餘澤に生きるを以て決して名譽とすること勿れ、又、羅馬文明の光に輝らされるを以て光榮なりと思惟すること勿れ。我獨逸民族は、東洋文明にもあらず羅馬文明にもあらず、より以上に更に雄勁なる文明を造らざるべからず、造るべき神の使命を有せり。

而も斯くの如き重大なる責任を有する剛健なる獨逸民族は、善と愛と忍耐と献身の福音のみを説きて勢力に就て何等一言の福音をも傳へざる宗教を奉ずべきにあらず。善と愛と、献身と忍耐とを説きて勢力を説かざりし基督の福音は、墮落せる不道徳なる世界を救はんとするが爲めには、頗る有益なるものたるの價値を失はざるべしと雖も、斯くの如き宗教は、最早や今日に於ては、我獨逸民族の奉ずべき必要は無きなり。

り。其一小部分たりとも必要を認めざるなり。

オ、朕が信頼する獨逸帝國の民よ！

汝等は彼の博愛主義が何より出でたるかを知れりや。彼の國際的仲裁の意見が何より出でたるかを知れりや。彼の世界平和の思想が何より出でたるかを知れりや。彼の四海同胞主義の思想が何より出でたるかを知れりや。スラブ人及びラタン人の元氣を薄弱ならしめたるものが何なるやを知れりや。

汝等は知らざるべからず、博愛主義も、國際的仲裁の意見も、世界平和の思想も、四海同胞主義の思想も、すべて此の善と愛と献身と忍耐とを説ける宗教、即ち、東洋人の思想に生れたる此宗教より出でたるものなることを——。而して又、ラタン人やスラブ人の元氣が薄弱となりしも、其原因はすべて此の東洋人の思想に生れたる善と愛と献身と忍耐とのみを説ける宗教の信仰の結果にあることを——。

而して汝等は記憶せざるべからず。此の善と愛と献身と忍耐とのみを説きて勢力の

國民を骨拔さなす宗教

獨逸固有の福音  
福音を説かざる東洋人思想上の産物たる基督教は、信仰する國民をすべて骨抜きに國民と化し了する宗教なることを——斯くの如き宗教を信仰して、汝等は獨逸帝國を永久に擁護し得ると信ずるや。斯くの如き墮落せる信仰を奉じて、猶神の使命を全し得べしと信ずるや。

汝等が信仰すべき宗教は、斯くの如く元氣を薄弱ならしめ、剛健なる國民をも骨抜きと化せしむる墮落宗教にあらずして、他に在り。我光輝あり名譽あり責任ある獨逸民族の奉ずべき宗教は嚴として他にあるなり。

五二 獨逸固有の福音

オ、朕が信賴する獨逸帝國の民よ！

汝等は決して迷ふ勿れ、東洋人の思想の産物たる墮落信仰を奉ぜんと欲すること勿れ、新教たると舊教たるを問はず、汝が奉ずべき信仰以外の宗教は一切何者と雖も信ずる勿れ、奉ぜんと欲すること勿れ。勢力勝利の大主義に反する其等一切の宗教を

信ずること勿れ。

朕に使命を賜へる神は曰く、汝行きて、人民を撰び、アマテツク人と戦へよ、と。朕は斯くて生れ來り、獨逸皇帝となりて汝等を選べり、朕が選べるは即ち神が選べるなり。汝等は朕が命を奉じてアマテツク人と戦はざるべからず、而も最も勇敢に戦つて勝利を得ざるべからず。

汝等は、神が選べる汝等の敵と戦ふに、墮落せる骨抜き宗教を信仰して決して勝利を得ること能はず。汝等は我獨逸固有の福音に歸りて、アマテツク人を征服し、獨逸固有の福音に成れる大文明を造らざるべからず。汝等は邪神の教へに耳を傾けることなかれ、悪神の説を聴くこと勿れ、而して我獨逸固有の福音に歸りて、汝等を選び給へる神の教へを信仰せよ。汝等は汝等を選べる神の教を信仰して始めて剛健質實なる國民となり、朕が命を奉じて戦ひ、確實に勝利を獲得することを得べし。

獨逸固有の福音

オ、朕が信頼する獨逸帝國の民よ！

汝等は、決して迷ふなかれ、惑ふなかれ。汝等の信仰すべき神は嚴として我獨逸帝國に存せり。汝等が獨逸民族固有の福音に歸らば、神は喜んで汝等を常勝國民たる幸福を與ふべし。欣然として朕が命を奉じて使命を全ふするに充分なる絶倫の元氣と強大なる力とを與ふべし。

オ、朕が信頼する獨逸帝國の民よ！。汝等は迷ふなかれ、惑ふなかれ、直ちに我獨逸固有の福音に歸りて、汝等を選びたる神の前に忠順なれ。

五三 人造帝王と神造帝王

オ、朕が信頼する我獨逸帝國の民よ！

汝等は、獨逸固有の福音に歸り、汝等を選びたる神を信仰し、決して汝等の奉ずべ

からざる他宗教の説に耳を借すことなかれ。

彼等骨抜宗教の神權と帝權との關係について説く所の言を聴け、彼等曰く、シーザーのものはシーザーに返さるべからず、帝權は帝權なり、敢て宗教の關知する所にあらず、帝權は須臾にして滅ぶべきものなり、神權は永遠にして滅せざるものなりと又曰く、神權の永遠不滅より見れば、帝權の如き殆んど顧みるの要なきものなり。帝王も人なり、奴隸も人なり、帝王も奴隸も神の眼には一切平等にしてまた甲乙あるなし、高下あるなし、貴賤ある無しと。

オ、朕が信頼する我獨逸帝國の民よ！

汝等は彼等の所謂帝權なるものか如何なるものなるかを知らざるべからず、彼等の所謂帝王なるものが、如何なるものなるかを知らざるべからず。

彼等が所謂帝王なるものは、神の前に奴隸と同一視せらるゝ帝王なるものは、人造の帝王なり、人によりて帝位に擁立せられたる帝王なり、即ち人民より選ばれて帝王

人造帝王と神造帝王  
となれるものなり。議會と國民とに政治上の責任を負はざるべからざる帝王なり、絶對權力の帝王にあらざりて相對的權力の帝王なり。  
然れども汝等は、すべての帝王が人造帝王とのみ思ふべからず、尠くとも我獨逸帝國の皇帝のみは、薄弱なる人造帝王にあらざりて、絶對權の神造皇帝たるを忘るゝことあるべからず。

朕は神の命によりて生れ、神の命によりて獨逸皇帝となり、而して汝等を國民として選べり。朕は神の別身なり、使命を果さんが爲めに神によりて造られたる皇帝なり。故に朕が命は即ち神の命なり、朕が行ふは即ち神が行ふなり。我獨逸帝國のみは帝權即神權なり、神權即帝權なり。人造帝王の如く奴隸と神の前に同一視さるゝが如きものにあらざり、汝等は決して彼等の説を以て我獨逸帝國を見ることがなかれ、若し汝等が彼等の説を以て我獨逸帝國を觀んとせば、同時に汝等は獨逸帝國の人民たるの權利を失ふものなり、朕を侮辱するものたると共に汝等を選びたる神を侮辱するものなり。

汝等が朕を信頼するに於て朕も亦汝等を信頼す、汝等朕を信頼せざれば神の命に背くものとして朕は汝等に獨逸國民たるの權利を賦與すること能はず。朕が領土に居住すとも決して朕が親愛なる國民にあらざり。

オ、朕が信頼する我獨逸帝國の民よ！  
汝等は決して彼等の言に迷ふなかれ、彼等の説に惑はされて獨逸國民たるの資格を失ふことなかれ、汝等は帝權即神權たることを信ぜよ、神權即帝權たることを信ぜよ、あゝ朕が信頼する我獨逸帝國の民よ。

### 五四 酷刑中の極刑に處せん

朕を誤解せしむるものは朕を誤解せるものにして、又、朕を誤解するものは朕を知らざるものなり。朕が帝國內に於ても、政治、實業、經濟、文學、宗教、音樂、科學其他各方面各階級に朕を誤解せる者或は朕を知らざるもの決して尠なからず。是等の

酷刑中の極刑に處せん

酷刑中の極刑に處せん  
者は朕の有する使命を知らず、朕が超人たるを知らず、朕が政策を誤解曲解し、新聞に演説に、朕に對する不幸の念を發表し、多數の國民を己れと同一の解釋を朕に對して抱かしめんと爲しつゝあるは、朕能く之れを知れり。

彼等は朕に背かんとせり、即ち彼等は彼等を選選せる神の意に背馳せんとしつゝあり、彼等は我獨逸帝國の臣民たる權利を拋棄し又は神より剝奪されんとする非言非行を敢てしつゝあり。朕は彼等の爲めに、我獨逸帝國の爲めに、多くの國民の爲めに、將た又朕が爲めに、神の爲めに憂ふるに足らざることを看過すること能はず、何となれば、是等朕が何者たるかを知らず、朕が使命を知らず、獨逸帝國の過去に於ける歴史を知らず、又現在に於ける重任と將來に於ける光輝ある歴史を作らんとするを解せず、神を信仰せず、朕を誤解し朕が政治に不平を抱き、忠良なる多くの國民に過れる思想を鼓吹し、教唆煽動するは、結局神意に背き、朕が使命遂行に大障礙を來たし、光輝ある獨逸帝國を滅ぼし、名譽ある國民を第二の猶太人たらしむるに至らしむ

ものなり。朕は彼等を撲滅せざるべからず。神に對する責任上、如何なる方法を講じ手段を以てするも、斷乎として是等不逞の徒を撲滅せざるべからず。

我獨逸帝國は軍國主義を以て國是となす、朕は、我獨逸國民にして此軍國主義を非難し、不穩の言行を爲すの徒を一掃し去らざるべからず。これ我獨逸帝國の軍國主義は、徒らに他國の領土を侵略せんとするの目的にあらず、徒らに世界の平和を攪亂せんとするの目的にあらずして、神の使命を遂行するに就ての必要上より來りたる即ち我帝國を將來永遠に維持し世界を統一する神意を果さんが爲めのものなればなり。

我獨逸帝國國民は上は宰相より下は一農夫に至るまで、獨逸思想に統一せられ、朕を信頼し朕が命の下にはすべて没我ならざるべからず。朕は、我獨逸帝國の民にして、此獨逸思想に抵觸する思想を有し、反獨逸的言論行爲を敢てするの徒を撲滅せざるべからず、これ我獨逸帝國の獨逸的思想は、すべて神意を根源とせるものにして、反獨

酷刑中の極刑に處せん

逸思想を有し、是れを言行に現はすものは、即ち神意に背き、獨逸帝國の安全を破壊せんとするに結局するものなればなり。

朕を中外に誤解せしむるものは、反軍國主義の徒なり、反獨逸思想の輩なり。朕は是等非國民の無責任なる言論報道によりて、其政策實行上に多大の困難と挫折とを見ざるを得ざりき、過去に於て然り、現在に於て然り、將來に於ても必ずや然らん。朕は斷乎として是等の非國民を寛容すること能はず、すべての方法を講じ、すべての手段を盡しても、其撲滅を圖らざるべからず。

朕は社會黨と新聞記者の大多數を撲滅せざるべからず。何となれば、彼等は朕が軍國主義に反對せるものなればなり。軍國主義の下に陸海の軍備を擴張するは、朕が個人癖と野心とより出でたるものと思惟し、之れ獨逸帝國と將來危殆に陥るゝものと唱論しつゝあればなり。朕が内外の政策を意の儘に行はんとするを非難するものなればなり。

ばなり。朕が皇帝の範圍より脱線せるものとして非難するものなればなり。朕が言行に對して常に天下に誤解せしむべき批評と報道とを爲さんとしつゝあるものなればなり。朕が神の使命によりて生れ、神より特に與へられたる權利を以て、特に獨逸國民と臣民とを選びたることを知らざるものなればなり。朕は人民より選ばれたるにあらざる絶對尊嚴の皇帝たることを信ぜず、朕が言行に掣肘を加へんとするものなればなり。朕が全知全能の超人たることを解せず、朕をドンキホーテ式なり、誇大妄想狂的なりと傲すものなればなり。神權と帝權とに對する思想が、他國の人造帝王に於けると同一の思想を以て、神の化身とも謂ふべき朕が帝權を解釋せんとするものなればなり。彼等は何事に限らず朕が言行を非難し、朕を敵視せるものなればなり。

彼等をして朕を眞解せしめ、朕が政策を首肯せしめんとすることについて、又朕を眞解せず朕が政策を喜ばず徹頭徹尾朕を敵視せんとするものについて、朕は或は嚴に或は寛に、種々の手段と方法とを過去に於ても盡せり、現在に於ても盡しつゝあり。

然れども、彼等は益々朕を誤解せんとするの傾向あり。彼等は益々朕と離れんとしつゝあり。彼等は益々朕が政策に反対せんとするの態度を示しつゝあり。而して彼等の反獨逸思想は漸浸的に健全なる國民の思想を動かさんとしつゝあり。彼等の反獨逸的運動は、或一部に於ては偉大なる勢力を有し、教唆と煽動とは、愚民間に奏効せんとしつゝあり。彼等遂に朕に心服するなく、益々非國民思想の傳波に力め、愈々非國民運動を繼續せば、朕も亦遂に斷乎たる處置に出でざるべからず、即ち最後の手段を執らざるべからず。斷乎たる處置とは何ぞや、最後の手段とは何ぞや、即ち彼等を一人も漏さず捕縛して生きながら坑にするか、但しは殺戮するの酷刑なり。

酷刑中の極刑に處せん

朕素より生理の刑や殺戮の刑が、酷刑中の極刑にして、道義の立場より觀れば、確かに背人道的刑罰なるに相違なきを認む。されど、朕は其背人道的酷刑たるを知りつゝ猶是れを決行するの己むを得ざるなり、之れ彼等が彼等を選びたる神に叛旗を翻へさんとするが故なり。之れ彼等が神より受けたる朕の使命を無視するが故なり。之れ

彼等が光輝ある獨逸帝國を侮辱するのみならず、破壊して獨逸帝國を滅ぼさんとするが故なり。我獨逸民族の歴史を蹂躪せんとするが故なり。朕猥りに國民を殺戮して快事となすが如き野蠻を好む者ならんや。朕恣に神の名によりて臣民を酷刑に處し私に喜ぶが如き無慈悲暴虐なる皇帝ならんや。

### 五五 社會黨は寧ろ小敵

或者は曰く、ウイルヘルム二世は、今や社會黨の爲めに苦しめられつゝあり、獨逸國內に瀰漫せる社會黨の勢力は、彼れが即位當時に思惟せしが如き軟弱なるものにてはあらざりき。社會黨の勢力は非常なる速力を以て勢力を作りつゝあり、既に社會黨の爲めに、彼れの政策は幾度か失敗に歸せり、幾度か挫折せしめられたり、彼れは社會黨を籠絡利用して自己の理想を實行せんと試みしが、今は却つて社會黨の掣肘を受け、社會黨の言説に基きて政策を施さざるの己むなきに至れり。彼れに取りて社會黨は大敵なり、彼れにして自己の理想を貫徹せんとせば、非常なる困難を排するの勇氣

社會黨は寧ろ小敵

社會黨は寧ろ小敵

と決心となかるべからず、と。斯くの如きは之れ所謂皮相の觀察に過ぎざるものにして、齒牙にかくるの要無きものなるが如しと雖も、皮相者流ほど恐るべきものなし、何となれば皮相者の言説は絶対に朕を利する事なきのみならず、天下に朕を誤解せしむる事のみなればなり。

我獨逸國內に社會黨あるは事實なり、又其の社會黨が近時漸く勢力を得收し來れるも事實なり。然れども朕が大敵として朕を窘窮せしむるに足る實力ありと思惟する能はず、朕は彼等を有力なる大敵として精力を竭さざるべからざる程に迫害力を感知すること無し。

朕は、社會黨を一舉にして根絶せんとすれば、また容易に是を爲し得る權力と實力とを保留す。朕其權力と實力とを有しながら猶且つ最後の手段を執らざるは、朕が臣民を思念愛撫するの結果にして、彼等を刑罰するに殺戮等の慘虐を以てせず、寛仁なる手段方法を以て善良なる獨逸國民たらしめんと欲すればなり。

朕は神の命によりて生れ、神の命に依りて獨逸皇帝となりし現實の超人なり、彼等は直接神に選ばれたる超人にあらずして、朕親ら選びたる民なり、朕對彼等は神對人類との關係なり。人類は結局する所神に勝つ能はず、彼等は神に勝つ能はざるが如く朕に勝つ能はず。

朕と社會黨の軋轢は人類對人類の軋轢にあらず、人造皇帝對其人民との格執にあらず、神と人類との軋轢なり、超人と人との格執なり、彼等は結局神に服従せざるべからざるが如く、彼等は遂に朕に服従せざるべからず。

彼等社會黨は、朕より見れば大敵にあらずして寧ろ小敵なり、憚むべきの徒なり。何となれば、彼等は朕が神の使命を有する超人たることを知らず、結局する處神に抗すべからざるが如く朕と抗争することの無益なることを自覺する時期の來るべきを豫想するの明を缺けばなり。百年の抗争に疲勞困憊して遂に朕が脚下に命を乞はざるべ

社會黨は寧ろ小敵



からざる運命の將に來らんとしつゝあるを知らざるの徒輩なればなり。

我獨逸國內の社會黨を以て朕が大敵なりとなすものは、彼等社會黨と共に朕を知らざるものなり、朕が如何なる使命を有して獨逸皇帝となりしかを知らざるものなり。朕對國民との先天的關係を熟知せざるものなり。彼等社會黨の大努力大熱心も水上に於ける泡沫の如く、忽ち消散するの已むなき運命を有するを知らざるものなり。我獨逸帝國內に於ては他國に於けるが如く社會黨の跋扈跳梁は遂に容れられざるものなることを知らざるものなり。神と人類とを、超人と人間とを、人造帝王と神造帝王とをすべて混同視せるものなり。社會黨の憫むべきものたると同じく遂に憫むべきの徒なり、盲目なる批評たるを免かれざるものなり。

五六 新聞政略

朕は新聞を憎む、蛇蝎以上に憎み、黄色の悪魔以上に惡む、世界に於ける憎むべ

きすべてのもの以上に憎まざるを得ず、何となれば、天下に朕を誤解せしむるものは即ち彼れ新聞なればなり、朕が神の使命たる全歐統一の事業を阻害し破壊せんとするものは、即ち彼れ新聞なればなり、あらゆる讒誣と中傷とを加へ、朕に對して反感を抱ける者を巧みに教唆煽動するものは、即ち彼れ新聞なればなり。朕の敵を多からしめんと力むるは彼れ新聞なればなり。

されど、朕はまた新聞を好む、朕が好む第一のもの以上に之を愛好すてふ事は言ひ得ざるも、尠くとも朕が好むものゝ一たるは事實にして、之を茲に天下に明言するも將來悔ゆることなきを信ず。何となれば、朕は新聞を利用して、朕が思想を天下に傳達せしめ、朕が過去に於て爲したる、又現在に於て爲しつゝある、或は將來爲さんとする、總ての政策總ての計畫を辯護せしむるを得る上に於て、最も偉大なる効力を有し速力を有するものなればなり。

新聞政略

モルヒネは瞬間に人を殺す恐るべき強烈なる毒薬にして又瀕死の病者を間髪の間にも復活蘇生せしむ偉大なる効力を有する寶藥なり。其人を瞬間に死に至らしむる猛烈なる毒力のみを認むるときは、モルヒネは人類社會に於ては、有害無益の惡藥にして、一瓦の存在も必要とすべきものにあらず。彼の新聞は恰かもモルヒネの如きものなり。モルヒネが瞬間に人を死に臻らしむる強烈なる毒力を有する如く、新聞は人の人格を傷け、人の名譽を損じ、人を墮落せしめ、社會を毒し、國家を紊し、平和なる天地を攪亂して紛擾の天地と化せしめ、國際間に誤解を起さしめ、瑣細簡單なる問題を紛糾錯雜の暗室に導き、遂に戰爭てふ大禍を醸さしむる大害物なり、大毒物なり。モルヒネが毒力のみより見れば人類社會に絶対に不必要なるものなるが如く、新聞も亦、其有害有毒なる點のみより觀るときは、何れの國に於ても絶対に存在を許すべきものにあらず。

然れども、用法の如何によつては大毒藥たるモルヒネが、必要缺くべからざる寶藥

たるが如く、彼れ新聞も亦、其の用法の如何によつては天下國家の至寶にして一日も無くて能はざる必要物なり。モルヒネが瀕死の病者を復活せしめ不治の癩病を即座に癒する卓越顯著なる効力を有するが如く、新聞も亦偉大なる効力を有す、損ぜられたる人の名譽を回復せしむるは彼れ新聞の力なり。傷けられたる人の人格を訂正するも彼れ新聞なり。墮落の底より人を救済するも亦彼れ新聞なり。紊亂せる國家を警醒するに於ても、紛糾せる社會問題に仲裁的判決を下して無事に解決するに於ても、人心の紛擾を鎮靜せしむるに於ても、國際問題の誤解紛争を融和するに於ても、新聞は絶大な力を有す。朕が新聞を憎惡して而して又愛好するの理由は、此有害にして又此有益なるものたるを知らばなり、故に朕は此有益なる方面に於てのみ新聞を利用することに怠らず。

五七 新聞の皇帝

朕は新聞を利用して政略を行ふことに於て、世界の何人にも第二位たらざるを確信

新聞の皇帝

新聞の皇帝  
す。朕は我獨逸帝國內に於ても數十の新聞を有せり、彼等は常に朕が手となり足となり口となり耳となりて朕に盡しつゝあり。朕が超人たることを、朕が神の特別なる使命を受けたる神製の皇帝たることを、朕が全歐統一計畫は朕自らの野望にあらずして神意に據れるものなることを、軍國主義は神意を奉戴したる結果の手段たるに外ならずして、決して猥りに戦争を好むものにてはあらざることを、獨逸國民は如何なる場合と雖も朕に對して絶對服従をなさざるべからざることを、其他すべての事について國民を信ぜしめんと努力しつゝあり。

朕が盛んに新聞を利用して政略の具に供せしめる事實を知れる者は言へり、惟ふに世界列國の元首及び政治家中、ウイールヘルム二世の如く、能く新聞の勢力を知り、又之れを利用してことに巧妙なる手腕を有するものはあらざるべし、と。然り、彼等の批評は適中したる批評なり、間違なき批評なり。朕親からと雖も、新聞の勢力を能く知る第一人たることを認許せり。又新聞を利用するに巧妙なる手腕を有することも第一人

たることを自ら容せり。而して又新聞を利用して政略の手段として成功しつゝあることに於ても、世界列國比肩すべき者なきを確信せり。

彼等又曰く、ウイールヘルム二世は、大計畫を以て新聞政略を行ひ、國內到る處の大都會に機關新聞を有し、是れを盛んに利用しつゝあり。之れ聯邦諸州中皇帝に對する不平反感を抱ける者隠然大勢力を抱擁し居るが故に、是を利用して種々の手段を以て聯邦の諸侯及び人民を籠絡鎮壓し、反カイゼル思想を排除せんが爲めなり、而して彼れは今や大いに其効果を擧げつゝありと。然り、朕が國內倒る處に機關新聞を有するは朕を誤解せる國民を啓發指導し、朕を眞解せしめて優秀善良なる國民化せしめんが爲めなり。即ち神と朕との關係を——、神と國民との關係を——、朕と國民との關係を——、より能く了解確信せしめんが爲めなり。獨逸國民は億兆心を一にして朕と共に獨逸帝國の名譽あり光輝ある歴史を辱しめざるべく努力すると共に、神が特に朕に命ぜられたる全歐統一——世界統一の大業を完成すべく朕が肱股とならしめんが爲めなり。

り。朕が新聞を利用するは是れ以外決して何等野心あるにあらず。

彼等猶評すらく、獨逸皇帝ウイヘルム二世が、新聞の爲めに費泄する金額の果して幾何なるやは、皇帝のみ知りて他の者の窺知し得ざる處なりと雖も、驚くべき巨額に達しつゝあることは、皇帝が幾何の機關新聞を有せるかを知れる者の否認せざる所なり、皇帝は新聞に巨額の支出を爲すと雖も、亦彼れが其等の新聞によりて得る處の利益は、決して尠少にあらざることも、彼れの新聞政略を知れるもの、等しく首肯する所なり。——人若しウイヘルム二世を以て、新聞の皇帝なりと言ふも、其言は決して誇張されしものと云ふべからず。——彼れウイヘルム二世の勢力は、新聞と通信とを肺藏として呼吸しつゝあり。——ウイヘルム二世の如く、新聞に對して神經の鋭敏なるをのほしく、而して又其の機關新聞の如く、其の支配者の思想感情を反映する新聞は、他に類例を求むること能はず。——其機關使用者と其機關との間に意志の通應すること、斯くの如く驚くべき程に敏速なるが故に、彼れは是れを利用して、

如何に微妙にして復雜したる計略をも、自由に且つ容易に爲すことを得るなり——と彼等が言へる如く、朕は新聞の爲めに巨費を支出しつゝあるは事實なり、而も其費消する金額が幾何の鉅額に達しつゝあるかは、全く朕が機密に屬するを以て、決して公表すること能はずと雖も、彼等が推想せるが如く、驚くべき巨額なることは事實なり然れども、朕は此驚くべき巨費を新聞及通信の爲めに支出するも、朕は決して損失しつゝありと思惟すること能はず、無意味に巨費を投じつゝありと思惟することなし。何となれば、朕が是等の新聞政略によりて得る利益は、何人も想像し得ざる程に大なり、金額に換算するも、費消の數十百倍の利益を得つゝあり、否な數萬億倍の利益を獲得しつゝあるなり。

彼等が評せる如く、朕を以て新聞の皇帝なりと云ふも決して當らざる言にあらず。朕は世界中に於て朕程に新聞の勢力を知り、朕程有効に新聞を利用しつゝあるものは他に匹敵する者一人もあらざるべきを信じて疑はず。